maxell

取扱説明書

iVDR プレーヤー

形名 VDR-P300

iVDR S

このたびはiVDRプレーヤーをお買い求めいただき、ありがとうございます。

最初に この取扱説明書に記載の「安全上のご注意」(p.4 ～ 8)をお読みください。
本体の取扱いは、この取扱説明書をよくお読みになり、ご理解のうえ正しくご使用ください。
取扱説明書と保証書は大切に保管してください。

X6840JH
Printed in China　2VMN00173A　★★★★

この取扱説明書について

- 本書の操作説明は、リモコンでの操作を中心に説明しています。
- 「本機」、「本体」とは「お使いのプレーヤー」のことを、「他機」とは「本機以外の機器」のことを表します。
- 画面表示の細部や説明文、表現、ガイド、メッセージの表示位置などは、本書と製品で異なることがあります。
- 本書で例として記載している各画面の内容やキーワードなどは説明用です。
- 本書では専門的な用語が使われている場合があります。それらの用語については「用語説明」(p.48)をご覧ください。
- 本機の動作状態によっては、実行できない操作をしたときに画面にメッセージが表示される場合があります。本書では、画面にメッセージが表示される操作制限についての説明は省略している場合があります。

説明で使用するマークの意味

本機を使う際に、気をつけていただきたい情報です。

本機を使う際の、補足説明やお知らせです。

■ 本機で使えるメディアとファイル形式

マーク	メディア／ファイル(コンテンツ)に関する詳細
カセットHDD	カセットHDD
USB	JPEG形式の静止画が記録されたUSBメモリ
DLNA 映像	映像が記録されたホームネットワーク上の機器
DLNA 音楽	音楽が記録されたホームネットワーク上の機器
DLNA 写真	JPEG形式の静止画が記録されたホームネットワーク上の機器

付属品を確認する

□ の中に、チェックマーク(✓)を付けてご確認ください。
欠品などお気づきの点がございましたら、お買い上げの販売店にご連絡ください。

- □ リモコン／ 1個
- □ 単四形乾電池／ 2本
  ※リモコン動作確認用
- □ 本書(取扱説明書) ／1冊
- □ 保証書／ 1枚

梱包箱に貼付された保証書は、内容をご確認の上、大切に保管してください。製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際には、本機背面の製造番号と保証書の製造番号が一致しているかご確認ください。

もくじ

1 はじめに

2 接続

3 基本設定

4 操作をする前に

5 使えるメディア

6 再生する

7 便利な機能

8 さまざまな情報

1 2 3 4 5 6 7 8

安全上のご注意 必ずお読みください

商品本体および取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）を理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■ 表示の説明

表示	表示の意味
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷※1を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷※2を負う可能性が想定される内容および物的損害※3のみの発生が想定される内容を示しています。

※1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさしています。
※2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさしています。
※3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさしています。

■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
禁止	"⃠"は、**禁止**（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
指示	"●"は、**指示**する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
注意	"△"は、**注意**を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

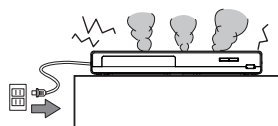
安全上のご注意

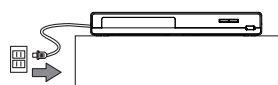
● イラストはイメージであり、実際の商品とは形状が異なる場合があります。

異常や故障のとき

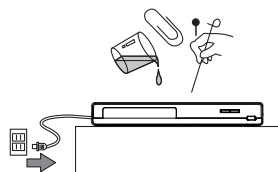
⚠警告

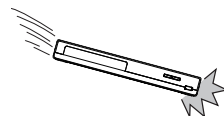
■ 煙が出ている、異臭や音がするときは、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

異常のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなる、異臭や音がしないことを確認して販売店に修理をご依頼ください。

■ 画面が映らない、音が出ないなどの故障の場合には、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

ただちに販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 内部に水や異物などが入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

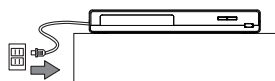
ただちに販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

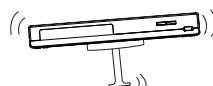
⚠警告

■ 本機を落としたり、破損した場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜く

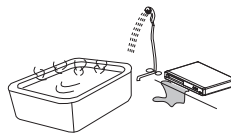
ただちに販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置するとき

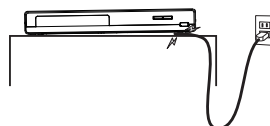
⚠警告

■ 電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付ける

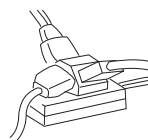
本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと、火災・感電の原因となることがあります。本機は電源が「切」の状態でも、微弱な電流が流れています。

■ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 水まわり（風呂、シャワー室）など水滴がかかる場所で使用しない

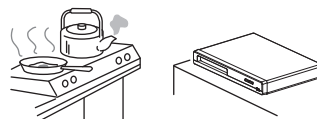
火災・感電の原因となります。

■ 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない

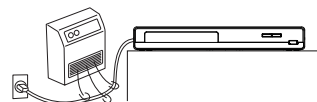
コードに傷が付いて、火災・感電の原因となります。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに重い物をのせてしまうことがあります。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使い方や交流100V（50/60Hz）以外では使用しない

たこ足配線など、定格を超えると発熱により、火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ 湿気やほこりの多い場所、調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所やエアコンの下など、水滴が落ちるおそれのある場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源コードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

■ 温度の高い場所に置かない

直射日光が当たる場所や閉め切った自動車内、熱器具の近くなどに設置されると、火災・感電の原因となります。また、破損、その他部品の劣化や変形・変色など、悪い影響を与えますのでご注意ください。

次ページへつづく

安全上のご注意 必ずお読みください・つづき

⚠注意

■ **移動させる場合は電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く**

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。

プラグを抜く

■ **本機を医療機器の近く(同部屋)には設置しないでください**

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

禁　止

使用するとき

⚠警告

■ **本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品や薬品など液体の入った容器を置かない**

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

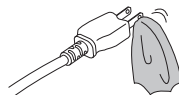
■ **本機に水をこぼしたり、ぬらしたりしない**

火災・感電の原因となります。

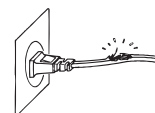
- 雨天、降雪中での使用は特にご注意ください。

水ぬれ禁止

■ **電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、乾いた布で拭いて取り除く**

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
定期的に(年に1回程度)清掃してください。

指　示

■ **電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、束ねたり、加熱したりしない**

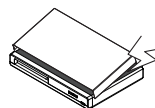
コードが破損して、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。

禁　止

■ **雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない**

感電の原因となります。

接触禁止

■ **本機のトップカバーは開けない本機を分解、改造しない**

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

■ **カセットHDD挿入口に指などを入れない**

カセットHDD挿入口や内部に指を入れて突起に触れたり、ドアの開閉時に隙間に指をはさんだりすると、けがの原因となることがあります。

禁　止

■ **乗り物の中で使用しない**

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

⚠警告

■ 屋外で使用しない

内部に水や異物が入る可能性があり、そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください

- 誤って飲み込むと、身体に悪影響をおよぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠注意

■ 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。
また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

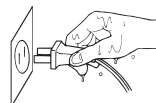
■ 電源プラグはゆるみがあるコンセントに接続しない

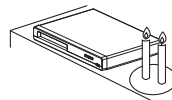
発熱して火災の原因となることがあります。
販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

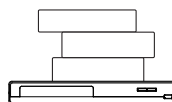
■ 本機の上に乗らない

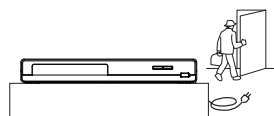
特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

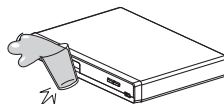
感電の原因となることがあります。

■ 機器の近くにローソクなどの裸火を置かない

火災・感電の原因となることがあります。

■ 本機の上に重い物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、
けがの原因となることがあります。

■ 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。

■ カセットHDDの挿入口の前にものを置かない

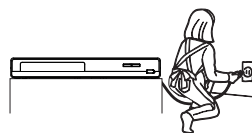
カセットHDDを取り出した際に、ものに当たって倒れたり破損して
けがの原因となります。

●●▶ 次ページへつづく

安全上のご注意 必ずお読みください・つづき

お手入れするとき

⚠注意

■ **お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行う**

接続したまま作業すると、感電の原因となることがあります。

■ **可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しない**

清掃や可動部の潤滑用など、可燃性ガスを本機に使用すると、噴射される可燃性ガスが本機の内部に留まり、モーターやスイッチの接点、静電気の火花が引火して、爆発や火災が発生するおそれがあります。

■ **年に一度程度は、内部の掃除を販売店などにご相談ください**

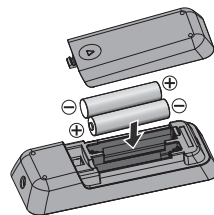
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除作業および費用については販売店などにご相談ください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

■ **間違った電池の使い方をしない**

極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、
表示どおりに入れてください。電池の破裂、液漏れにより、
火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 乾電池は充電しないでください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 火、水の中に入れないでください。
- 分解、加熱しないでください。
- 日光、火などの過度の熱にさらさないでください。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しないでください。
- 液漏れした電池は使わないでください。
- 使い切った電池や長期間使用しない電池は、入れたままにしないでください。
  電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

⚠注意

■ **電池が液漏れしたときは、素手で液をさわらないでください**

- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがありますので目をこすらず、
  すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になることがありますので、
  すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 皮膚に炎症やけがの症状が現われたときには、ただちに医師の治療を受けてください。

禁　止

■ **乾電池を廃棄する場合は、プラス・マイナス端子に絶縁テープを貼るなどして絶縁状態にしてから「所在自治体の指示」にしたがって廃棄してください**

他の金属片など導電性のあるものと一緒に廃棄するとショートして、発火、破裂の原因となることがあります。

メモ

- 「安全上のご注意」をお読みになったあとは ➡「使用上のお願い」（p.9）も同様に、必ずお読みください。

使用上のお願い 必ずお読みください

■ 免責事項について

- 火災、地震や雷などの自然災害、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた障害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な障害(事業利益の損失、事業の中断)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアなどとの意図しない組み合わせによる誤動作やハングアップ(操作不能)などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

カセットHDDについての重要なお願い

カセットHDDは衝撃や振動、温度などの周囲の環境の変化による影響を受けやすく、記録されているデータが損なわれることがありますので以下のことにお気をつけください。

- 振動や衝撃を与えないでください。(特に動作中)
- 振動する場所や不安定な場所で使用しないでください。
- 本機は水平に置いてください。
- 温度の高いところや急激な温度変化のある場所では使用しないでください。
- 電源を入れたままの状態で電源プラグをコンセントから抜かないでください。
- 本機動作中に電源プラグをコンセントから抜いたり、本機設置場所のブレーカーを落としたりしないでください。電源プラグは、必ず電源ボタンを押して、終了処理が終わり、完全に電源が切れてから抜くようにしてください。本機動作中に電源プラグを抜いたりブレーカーを落としたりすると、カセットHDD内に記録されたデータがすべて失われることがあります。
- 衝撃・振動・誤動作および故障や修理などによって生じた記録データの損壊、喪失について、当社は一切の責任を負いません。
- カセットHDD挿入口に異物を挿入しないでください
- カセットHDD以外のものを挿入しないでください。また、コインなどの金属物や異物を挿入しないでください。事故や破損の原因となります。

カセットHDDは非常に精密な機器で、使用状況によっては部分的な破損や、最悪の場合データの読み書きができなくなるおそれもあります。このためカセットHDDは、記録した内容の恒久的な保管場所ではないことをご理解のうえでご使用ください。

また、カセットHDD内に壊れかけている部分があると、その部分にブロックノイズ(四角いノイズ)が出たり、音声の乱れが発生することがあります。そのまま放置すると、ノイズや乱れが激しくなってきて、最悪の場合、カセットHDD全体が使えなくなってしまうおそれがあります。

取扱いに関すること

- 非常時を除いて、電源が入っている状態では絶対に電源プラグをコンセントから抜かないでください。故障の原因となります。
- USB端子に異物を挿入しないでください。USBメモリ以外のものを接続しないでください。また、コインなどの金属物や異物を挿入しないでください。事故や破損の原因となります。
- “高速起動”を“入”に設定しているときは、コンセントを抜かないでください。故障の原因となります。
- **移動させるときは…**
  引越しや修理などで本機を運搬する場合は、必ず本機用の梱包箱とクッション材をご使用ください。
- 本機を立てた状態で輸送しないでください。
- 殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはがれたりする原因となります。
- たばこの煙や煙を出すタイプの殺虫剤、ほこりなどが機器内部にはいると故障の原因になります。
- 長時間ご使用になっていると上面や背面が熱くなりますが、故障ではありません。
- 本機は精密電子機器です。長くご愛用いただくためにできるだけ丁寧に取扱ってください。

使用しないときは

- **ふだん使用しないときは…**
  カセットHDDを取り出し、電源を切ってください。
- **長期間使用しないときは…**
  電源プラグを抜いてください。

置き場所に関すること

- 本機は水平で安定した場所に設置してください。ぐらぐらする机や傾いている所など不安定な場所で使わないでください。カセットHDDがはずれるなどして、故障の原因となります。本機を設置する場所は、本機の重さが十分に耐えられることを確認してください。また本機が落下した場合に、けがや故障の原因となるため、高い場所への設置はしないでください。
- 本機をテレビやラジオなどの近くに置く場合には、本機を使用中、組み合わせによっては画像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一、このような症状が発生した場合はテレビやラジオなどからできるだけ離してください。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど温度が高くなる場所や、熱源になるような機器の上には置かないでください。故障の原因になります。
- 超音波式加湿器のそばに置かないでください。超音波式加湿器をご使用の場合、水質によっては水道水に含まれるカルキやミネラル成分がそのまま霧化され、本機内部に白い粉状のものが入り込んで故障の原因になる恐れがありますのでご注意ください。

次ページへつづく

使用上のお願い 必ずお読みください・つづき

お手入れに関すること

- お手入れの際は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 本体のよごれはやわらかい布（ガーゼ等）で軽く拭き取ってください。ティッシュペーパーや硬い布は使わないでください。
- お手入れの際、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、殺虫剤などの揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。変質したり、塗料がはがれるなどの原因となります。
- 洗剤を直接本機にかけないでください。水滴が内部に入ると、故障の原因になります。操作パネル部分の汚れは、柔らかいきれいな布（生地の表面が起毛された綿素材など）で軽く拭き取ってください。
- 汚れがひどいときには、水で100倍以上に薄めた中性洗剤に布をひたしよく絞ってから拭き取り、乾いた布で仕上げてください。特に、次の洗剤などは亀裂や変色、傷付きの原因となりますので使用しないでください。
  酸・アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、みがき粉、粉石鹸、OAクリーナー、カーワックス、ガラスクリーナー類、化学ぞうきんなど

- 油汚れ等が付いたときは、弱い中性洗剤を薄めたものを柔らかい布に含ませたものを固く絞って使用し、その後、温水を含ませて固く絞った布で十分に拭き取ってください。（この処置を行ってもわずかに表面が変質することがあります。）

日本国内用

- 本機を使用できるのは日本国内だけです。
  国外では電源仕様が異なり使えません。
  This recorder is designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.

再生するときの制約

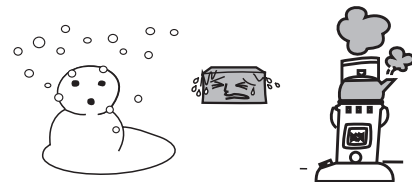
- ボタン操作中にテレビ画面に“⊘”が表示されることがあります。“⊘”が表示されたときは、その操作ができないことを示します。

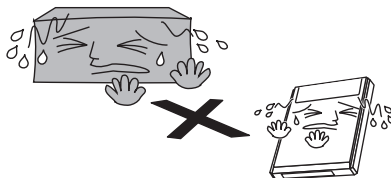
結露（露付き）について

結露は本機やカセットHDDを傷めます。よくお読みください。

- 例えば、よく冷えたビールをコップにつぐと、コップの表面に水滴がつきます。これを“結露（露付き）”といいます。この現象と同じように、本機やカセットHDDの内部や部品などに水滴がつくことがあります。

“結露”はこんなときに発生します。

- 本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき
- 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところに置いたとき
- 夏季に、冷房の効いた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動したとき
- 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋に置いたとき

結露が発生しそうなときは、本機をご使用にならないでください。

- 結露が発生した状態で本機をお使いになりますと、カセットHDDや部品を傷めることがあります。時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

廃棄の際は、所在自治体の条例または規則にしたがってください。

- 本機を廃棄・譲渡などする場合には、各種“初期化”（p.42）を行うことをおすすめします。なお、放送番組などを録画・保存したカセットHDDを譲渡すると、著作権を侵害するおそれがありますのでご注意ください。また、お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、または故障・修理のときなどにカセットHDDに保存されたデータなどが変化・消失するおそれがあります。これらの場合について、当社は責任を負いません。

重要 必ずお読みください

カセット HDD（iVDR）の取扱いについてのお願い

カセットHDDは非常に精密な機器です。使用する環境や取扱いによりカセットHDDの動作および寿命に影響を与える場合がありますので、次の内容を必ずお守りください。カセットHDD 取扱説明書に記載されている注意表示も必ずお守りください。

■ 設置時

- 振動や衝撃が起こらない場所に設置してください。
- ごみやほこりの少ない場所に設置してください。
- 「結露」（露付き）が発生しにくい場所に設置してください。「結露」は故障の原因になります。詳しくは、「結露（露付き）について」（p.10）をご覧ください。
- 温度や湿度が高くない場所、直射日光があたらない場所に設置してください。温度や湿度の高い場所に設置すると、再生不良が発生したり、故障の原因になります。
- 安定した動作を維持するため、長期間ご使用されない場合でも、一年に一回程度は通電していただくことをおすすめします。

■ 動作中

- 電源プラグを抜かないでください。
- 振動や衝撃を与えたり、本機を移動させたりしないでください。

移動するときには・・・・ ① カセットHDDアクセス（動作中）ランプが消灯していることを確認し、カセットHDDを取り出す。
② 電源ボタンを押してスタンバイ状態にする。
③ 電源プラグをコンセントから抜き、本体を動かす。

カセットHDDアクセス（動作中）ランプ（p.13）が赤色で点灯中のときは、カセットHDDを抜かないでください。カセットHDD の記録内容が損傷し、再生できなくなる可能性があります。

お知らせ

- 本機に電源が入っている間、カセットHDDは高速で回転しています。起動時や回転中に発生する音や振動は故障ではありません。
- データ読み取りの状態により、再生画面にまれにノイズが発生することがありますが、これは故障ではありません。
- 振動や衝撃によって、カセットHDDが正常に動作しない場合があります。

■ 停電が発生した場合

- 再生中に停電等で電源が供給されなくなった場合、カセットHDDの記録内容が損なわれる可能性があります。

■ 故障時のお願い

- 再生画面が一時停止したり乱れが頻繁に発生する場合は、カセットHDDの故障が考えられます。このような場合はカセットHDDの交換が必要です。
- 故障したカセットHDDを交換する場合、カセットHDDの記録内容を新しいカセットHDDに移すことはできません。
- カセットHDDの故障時は、カセットHDDの保証書をご覧いただき、保証書に記載のお問い合せ先にご連絡ください。

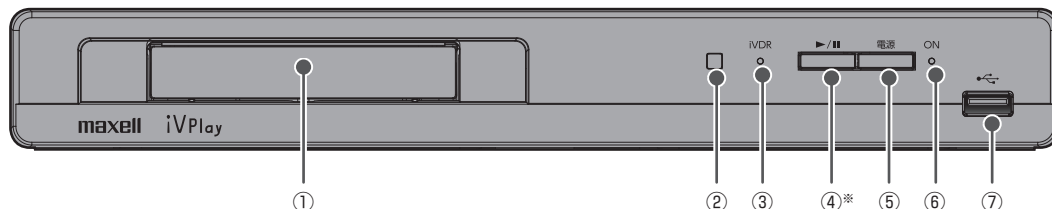
万一何らかの不具合により、再生ができなかった場合の内容（データ）の補償や損失、直接・間接の損害について、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

各部の紹介

リモコン

■ 乾電池の入れかたは（p.18）をご覧ください。

※ ▶ でも本機を起動させることができます。

本体前面

① **カセットHDD（iVDR)挿入口**
カセットHDDを挿入する(p.28)

② **リモコン受光部**(p.18)

③ **カセットHDDアクセス(動作中)ランプ**
カセットHDDにアクセス中(読み込み中、再生中)のときに、赤色で点灯

④ **再生／一時停止ボタン**※
タイトルやファイル一覧画面で、選択しているタイトルやファイルを再生する
再生を一時停止する

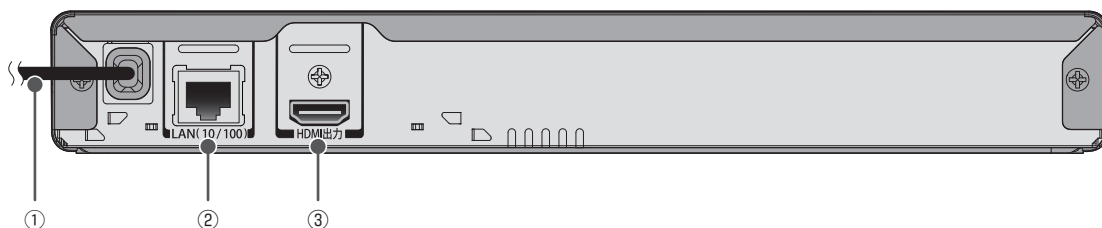
⑤ **電源ボタン**
本機の電源を入／切する

⑥ **電源ランプ**
本機の電源が「入」のときに緑色で点灯

⑦ **USB端子**
USBメモリを接続する(p.28)

※ このボタンでも本機を起動させることができます。

- **本体ソフトウェア(ファームウェア)更新中は、カセットHDDアクセス(動作中)ランプと電源ランプが交互に点滅します。**

本体背面

① **電源コード**
必要な接続が終わってからつなぐ(p.17)

② **LAN端子**
ネットワーク機能を使う場合は有線で接続する(p.16)

③ **HDMI出力端子**
テレビのHDMI 入力端子と接続する

- **本体内部の放熱をよくするために、本体と壁やテレビ台などの周辺物との間は、適度な空間を空けてください。(p.14)**

接続のすすめ方

本機とテレビをつなぎます。(p.15)

必要に応じて
AVアンプでデジタル音声を楽しみたいときはHDMI入出力対応のAVアンプを本機とテレビの間につなぎます。(p.15)

必要に応じて
ホームネットワークを利用したいときはネットワークにつなぎます。(p.16)

すべての接続が終わったら電源プラグをコンセントに差し込みます。(p.17)

これで準備(接続)は終わりです。
基本設定に進んでください。

つなぐときのご注意

- **接続するときは、必ず本機および接続するテレビやモニターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  電源プラグはすべての接続が終わってから、コンセントに接続してください。(p.17)

据え付けについて

据え付けるときのご注意

① 本機の周囲は放熱のための空間を十分に確保してください。
② 密閉したケースや棚などに設置したりすると内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。
③ 強い衝撃や振動が加わらない場所に設置してください。カセットHDDに衝撃や振動が加わると、再生不良が発生しやすくなります。また、故障の原因となります。
④ 性能や安全性を維持するために、本機は床置きで使用しないでください。

本機をテレビやAVアンプにつなぐ

テレビとつなぐ

AVアンプとつなぐ

本機

LAN(10/100)

HDMI出力

HDMI出力端子へ

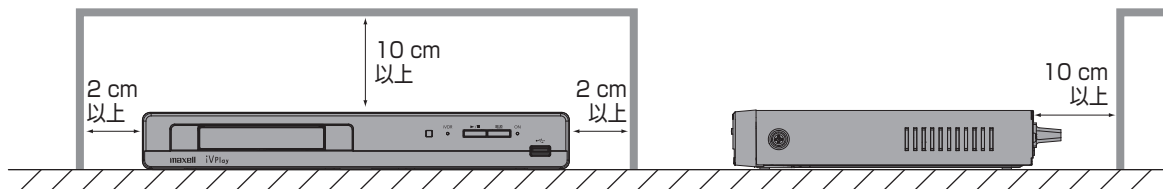
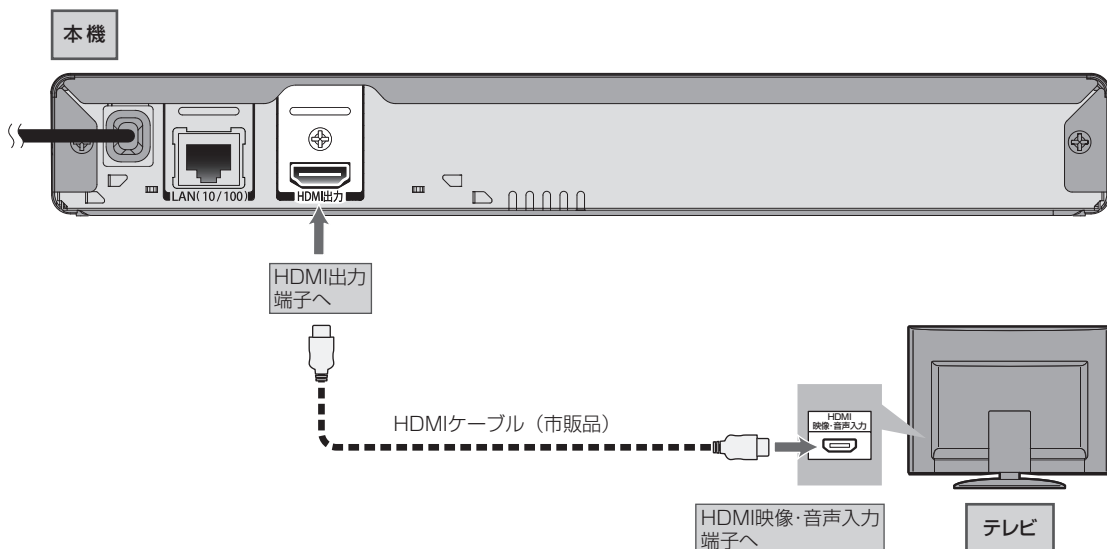
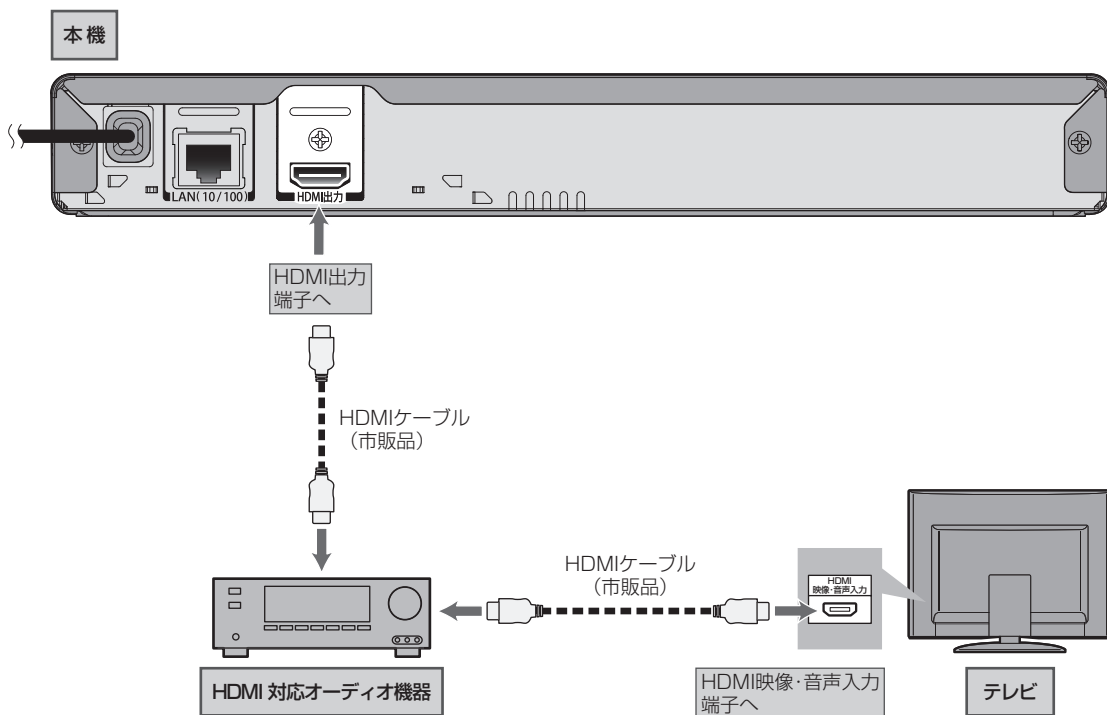
HDMIケーブル（市販品）

HDMIケーブル（市販品）

HDMI映像·音声入力

HDMI 対応オーディオ機器

HDMI映像･音声入力端子へ

テレビ

ご注意

- HDMIケーブルは、HDMI規格に準拠したHDMIロゴのあるHigh Speed HDMIケーブルをご使用ください。
- HDMIケーブルは、コネクター部の大きさや形状によって接続できないことがあります。
- HDCPに対応していないテレビに接続すると、映像が正しく表示されないことがあります。

本機をネットワークにつなぐ

本機とDLNA対応機器をホームネットワークでつなぐことで、接続機器側に記録されているファイルを、本機で再生することができます。さらに、ブロードバンド環境をお持ちの場合は、インターネットを利用して本機の本体ソフトウェア（ファームウェア）を更新したり、新しい本機の本体ソフトウェア（ファームウェア）が公開されているかどうかを自動で確認することができます。

■ すでにブロードバンド環境をお持ちの場合は

- 次のことをご確認ください。
  - 回線業者やプロバイダーとの契約
  - 必要な機器の準備
  - ADSLモデムやブロードバンドルーターなどの接続と設定
- 回線の種類や回線業者、プロバイダーにより、必要な機器と接続方法が異なります。
  ADSLモデムやブロードバンドルーター、ハブ、スプリッター、ケーブルは、回線業者やプロバイダーが指定する製品をお使いください。
- お使いのモデムやブロードバンドルーター、ハブの取扱説明書も併せてご覧ください。
- 本機では、ブロードバンドルーターやブロードバンドルーター機能付きADSLモデムなどの設定はできません。
  パソコンなどでの設定が必要な場合があります。
- ADSL回線をご利用の場合は
  - ブリッジ型ADSLモデムをお使いの場合は、ブロードバンドルーター（市販品）が必要です。
  - USB接続のADSLモデムなどをお使いの場合は、ADSL事業者にご相談ください。
  - プロバイダーや回線業者、モデム、ブロードバンドルーターなどの組合わせによっては、本機と接続できない場合や追加契約などが必要になる場合があります。
  - ADSLモデムについてご不明な点は、ご利用のADSL事業者やプロバイダーにお問い合わせください。
  - ADSLの接続については専門知識が必要なため、ADSL事業者にお問い合わせください。
- FTTH(光ファイバー)回線をご利用の場合は
  - 接続方法などご不明な点については、プロバイダーや回線業者へお問い合わせください。

■ ブロードバンド環境をお持ちでない場合は

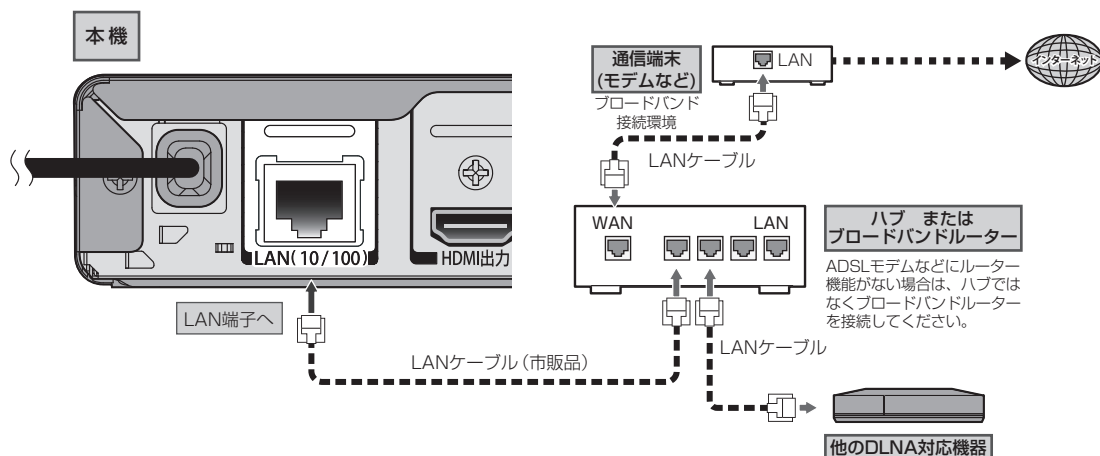
- インターネットを利用する場合は、プロバイダーおよび回線業者と別途ご契約（有料）する必要があります。
  詳しくは、プロバイダーまたは回線業者にお問い合わせください。

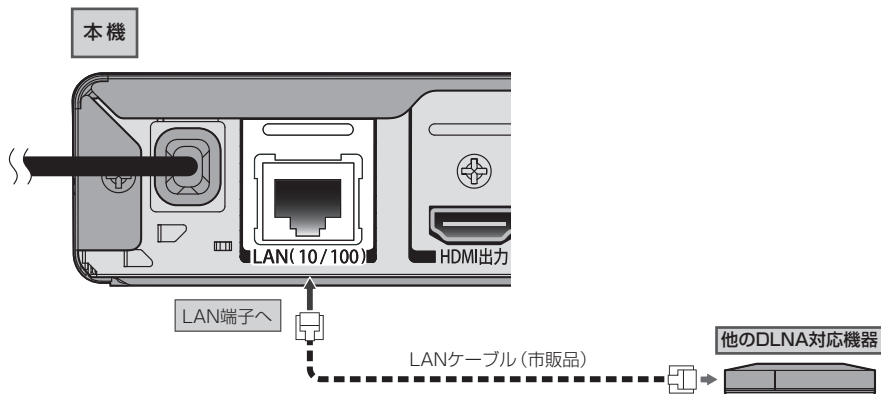
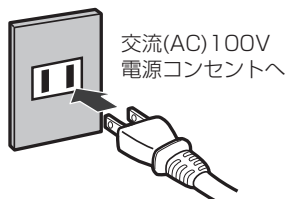
ご注意

- 本機をネットワーク接続したときは、ネットワーク接続の設定が必要です。（p.22）
- LANケーブルは、カテゴリー 5以上対応のストレートケーブル（市販品）をご使用ください。
- 本機からはインターネットを使用してウェブサイトを閲覧することはできません。

メモ

- ブロードバンドルーターなどの設定で本機のMACアドレスが必要な場合は、ホーム →“設定”→“ネットワーク設定”→“ネットワークステータス表示”画面で確認できます。（p.42）
- パソコンや外出先などから本機を遠隔操作することはできません。

ハブまたはブロードバンドルーターを使って接続する場合

本機と他の機器を直接接続する場合

直接接続では、以下のインターネットを利用する機能は使用できません。
・ネットワークによる本体ソフトウェア（ファームウェア）の更新（p.24）
・本体ソフトウェア（ファームウェア）の自動更新確認（p.24）

電源コードをつなぐ

すべての接続が終わったら、電源コードをつなぐ

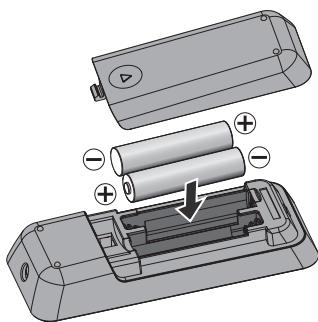
- 電源プラグを交流（AC）100 Vの電源コンセントに差し込むと、本機が通電状態になります。

リモコンの準備

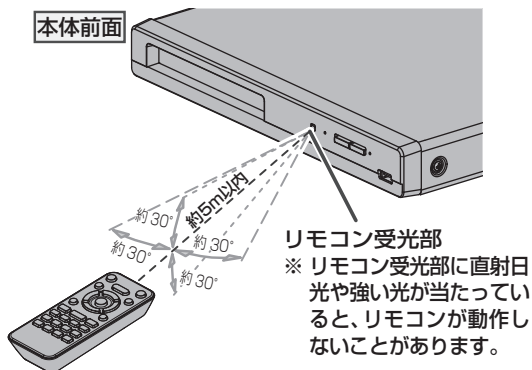
リモコンに乾電池を入れる

1 リモコン裏面のフタをはずす

2 「－」側を先に入れたあと、「＋」側を入れる

- 付属の単四形乾電池（1.5V 2本）をお使いください。

3 リモコン裏面のフタを取り付ける

リモコンの使用範囲について

リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。

距離･･･ 本機正面より 5m 以内
角度･･･ 本機正面より
左右 約 30° 以内（5m 以内）
上 約 30° 以内（5m 以内）
下 約 30° 以内（5m 以内）

ご注意

リモコンの乾電池について

- 乾電池が完全に入らない状態で使うと、乾電池が発熱し、やけどや故障の原因となることがあります。
- 次のような場合は、乾電池が消耗しています。すべての乾電池を新しいものに交換してください。
  - リモコンの使用距離が短くなってきたときや、一部のボタンを押しても動作しなくなってきたとき。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換することをおすすめします。
- 公称電圧1.5 Vを超える電池などは、リモコン誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 本機のリモコンは単４のマンガン乾電池または、アルカリ乾電池をご使用ください。
- 長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り出してから保管してください。
- 不要となった乾電池は、お住まいの地域の条例にしたがって処理してください。

リモコンの取扱いについて

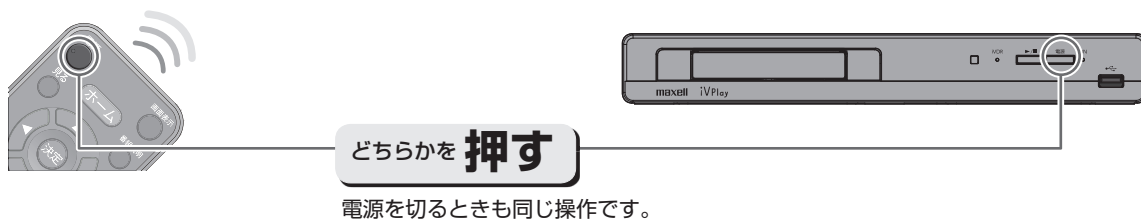
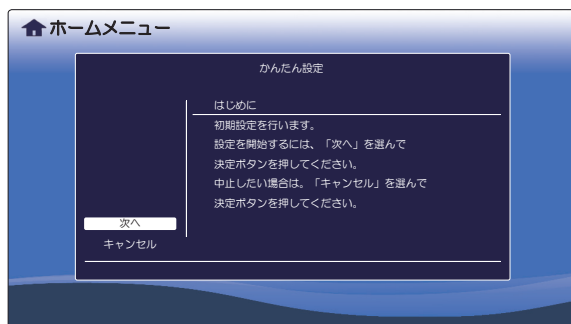
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。

本機の映像をテレビで見る

1 テレビの電源を入れる

2 テレビの入力切換で、本機が接続されている入力に切り換える

3 本機の電源を入れる

電源を切るときも同じ操作です。

■ 以下の画面が表示されたときは

- “かんたん設定”（p.20）を行ってください。

“かんたん設定”をする

接続が終わって初めて本機の電源を入れたときは、テレビ画面に“かんたん設定”画面が表示されます。画面の案内やガイドにしたがって、次の順で設定してください。

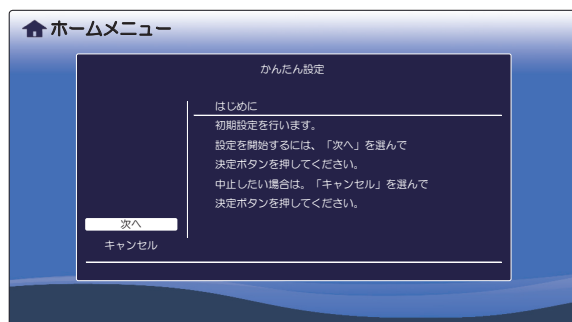
ご注意

● “かんたん設定”実行中は、電源コードを抜いたり電源を切ったりしないでください。

準備

- テレビの電源を入れる
- テレビの入力切換で、本機が接続されている入力に切り換える
- ネットワークを利用するときは、あらかじめ本機をネットワークに接続しておく(p.16)

1 電源 を押して本機の電源を入れる

● “かんたん設定”の開始画面が表示されます。

2 “次へ”が選ばれているので、そのまま 決定 を押す

高速起動を設定する

3 ▲ / ▼ で高速起動を設定するかどうかを選び、決定 を押す

“入”：“切”に設定したときよりも高速で起動しますが、待機時の消費電力が増えます。

“切”：“入”に設定したときよりも起動に時間がかかりますが、待機時の消費電力を抑えることができます。

本体ソフトウェア(ファームウェア)の自動更新確認を設定する

4 ▲ / ▼ で本機の新しい本体ソフトウェア(ファームウェア)の有無を自動で確認するかどうかを選び、決定 を押す

“入”：本機をインターネットに接続している場合、最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)の有無を自動で確認します。

“切”：最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)の有無を自動で確認しません。

ネットワーク接続を設定する

ネットワークを利用しない時は、▲ / ▼ / ◀ / ▶ で“キャンセル”を選び、決定 を押してください。“かんたん設定”を終了します。

5 ▲ / ▼ で“自動”を選び、決定 を押す

- 自動的に各項目が設定され、設定完了後は接続テスト結果が表示されます。
- “終了”を選び、決定 を押してください。
  - 手順 4 で“入”を選んだときは、ソフトウェア更新の確認画面が表示されます。手順 6 へ進んでください。
  - 手順 4 で“切”を選んだときは、“かんたん設定”を終了します。

ネットワーク接続ができていないときは

- “失敗”が表示されます。ネットワークの接続状態が正しいかご確認ください。
- “やり直し”を選んで 決定 を押すと、もう一度接続テストが始まります。

メモ

● IPアドレスを自動で割り振る機能がないルーターをお使いの場合は、▲ / ▼ で“手動”を選び、「ネットワークを手動で設定する」(p.22)の設定を行ってください。

最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)を確認する

6 ◀ / ▶ で本機の本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新を確認するかどうかを選び、決定 を押す

“はい”：最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)に更新できるか確認します。手順 7 へ進んでください。
本機の本体ソフトウェア(ファームウェア)が最新の場合は、確認画面が表示されるので 決定 を押してください。
“かんたん設定”を終了します。

“いいえ”：更新を確認しないで、“かんたん設定”を終了します。

7 ◀ / ▶ で本体ソフトウェア（ファームウェア）を更新するかどうかを選び、決定を押す

“はい”：　本体ソフトウェア（ファームウェア）のダウンロードが開始されます。完了後に自動で本機が再起動し、ソフトウェアの更新が始まります。完了後に再び本機が再起動し、“かんたん設定“を終了します。

“いいえ”：　本体ソフトウェア（ファームウェア）をダウンロードしないで、“かんたん設定”を終了します。

CECリンク機能を使う

CECリンク機能とは？

CECリンク対応機器（本機など）とCECリンク対応テレビをHDMIケーブルでつなぐことで、機器とテレビの連動操作が行えるようになる機能のことです。本機では、CECリンク機能を使用することで以下のようなことが可能になります。

- 本機の電源を入れて以下のボタンを押すと、テレビが自動的に本機が接続されているHDMI入力に切り換わります。

リモコン：ホーム　見る　 画面表示

本体前面：►/II

- 電源を2秒以上押すと、本機とテレビの電源が切れます。
- テレビの電源を切ると、自動的に本機の電源も切れます。

CECリンク機能を使うには、以下の手順を行って“CECリンク制御”の設定を“入”にしてください。

準備

- 本機とCECリンク対応テレビをつないでおく（接続のしかたは「本機をテレビやAVアンプにつなぐ」（p.15）をご覧ください。）
- テレビ側でCECリンクの設定をしておく（詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。）

1 ホームを押し、“設定” ➡ “HDMI接続設定” ➡ “CECリンク制御” ➡ “入”の順に選び、決定を押す

ご注意

- 接続するテレビにより操作できる機能は異なります。すべてのHDMI CEC対応テレビとの連係動作を保証するものではありません。
- 接続機器によってはお客様の意図しない動作をする場合があります。このようなときは “CECリンク制御”を“切”にしてください。

ネットワークの設定をする

本機をホームネットワークにつないで、DLNA対応機器などに記録されたコンテンツを本機で再生するときに設定します。

準備

● 本機をネットワークとつなぐ(p.16)

本機をネットワークに接続する

1 ホーム を押し、ホームメニュー画面を表示する

2 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で“設定”を選び、決定 を押す

3 ▲ / ▼ で“ネットワーク設定”を選び、決定 を押す

4 ▲ / ▼ で“ネットワーク接続設定”を選び、決定 を押す

5 ▲ / ▼ で“設定開始”を選び、決定 を押す

6 ▲ / ▼ で“自動”または“手動”を選び、決定 を押す

以下の設定を行ってください。

“自動”：「ネットワークを自動で設定する」(本ページ)へ進んでください。

“手動”：IPアドレスを自動で割り振る機能がないルーターをお使いの場合は、「ネットワークを手動で設定する」(本ページ)へ進んでください。

ネットワークを自動で設定する

“ネットワーク接続設定”の各項目を自動で設定し、接続テストを行います。すでに設定済みの場合は、新しく取得された設定値に更新されます。(プロキシの設定はクリアされます。)

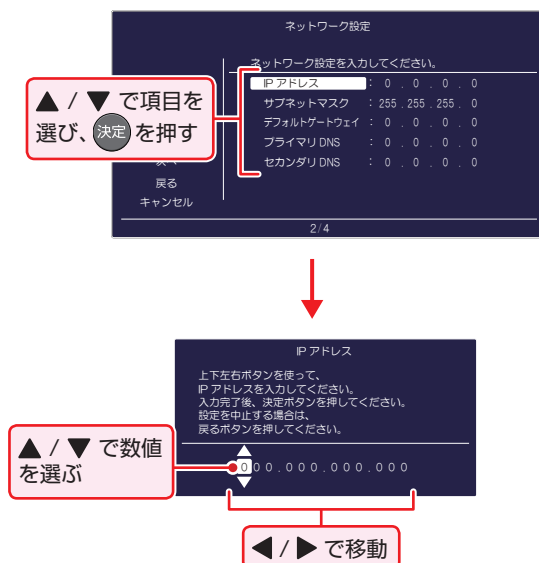
1 ▲ / ▼ で“自動”を選び、決定 を押す

● 自動的に各項目が設定され、ネットワークの設定が完了します。

2 ▲ / ▼ で“終了”を選び、決定 を押す

ネットワークを手動で設定する

1 ▲ / ▼ で“手動”を選び、決定 を押す

2 各項目に数値を入力する

• 入力を終えたら、決定 を押してください。

IPアドレス：
ネットワーク接続している他の機器(パソコンなど)に設定されているIPアドレスの最後の数値を、本機以外の機器で使われていない数値に変更して入力してください(0 ～ 255の範囲で入力可能です。)

(例) 他の機器のIP アドレス設定が“192.168.10.12”のときは、“192.168.10.223”(223の部分は12以外のお好みの数値)で設定してください。

サブネットマスク：
他の接続機器と同じ数値を入力してください。

デフォルトゲートウェイ：
他の接続機器と同じ数値を入力してください。

プライマリDNS：
他の接続機器の優先DNS サーバーと同じ数値を設定してください。

セカンダリDNS：
他の接続機器の代替DNS サーバーと同じ数値を設定してください。

他の接続機器と本機をLANケーブルで直接つなぐときの設定例

本機のネットワーク設定

項目	設定内容
IPアドレス	192.168.1.15
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
プライマリDNS	192.168.1.1

接続機器のネットワーク設定

項目	設定内容
IPアドレス	192.168.1.20
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
プライマリDNS	192.168.1.1

3 ▲/▼/◀/▶で“次へ”を選び、決定を押す

4 プロキシ設定が必要な場合は▲/▼で“はい”を選び、手順5に進む

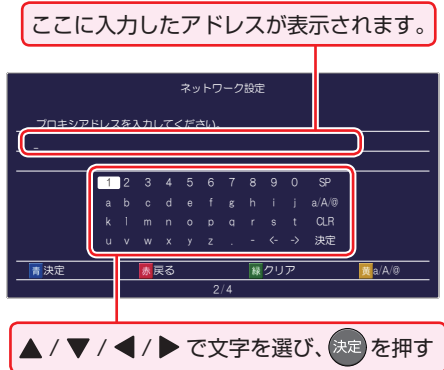
不要な場合は▲/▼で“いいえ”を選び、手順6に進む

5 プロキシアドレスとプロキシポート番号を設定する

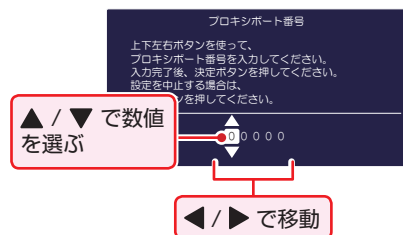
本機をブロードバンド環境でお使いになり、プロバイダーから指示があるときは、この設定を行ってください。

① プロキシアドレスを入力する

ここに入力したアドレスが表示されます。

▲/▼/◀/▶で文字を選び、決定を押す

“SP”	スペースを挿入します。
“a/A/@”	小文字/大文字/特殊文字(@!?など)を切り換えることができます。 黄 を押しても同じ操作ができます。
“CLR”	入力した文字を削除します。 緑 を押しても同じ操作ができます。
“<-”	カーソルを左に移動します。
“->”	カーソルを右に移動します。
“決定”	入力を完了し、次の画面へ進みます。 青 を押しても同じ操作ができます。

- 入力できるのは、英数字と記号のみです。
- 赤 を押すと、前の画面に戻ります。

② ▲/▼/◀/▶でプロバイダーが指定したポート番号を入力し、決定を押す

- 入力を終えたら、決定を押してください。

6 ▲/▼で“はい”を選んで決定を押し、接続テストを開始する

- 接続テスト終了後にテスト結果が表示されます。
- “終了”を選び、決定を押してください。

ネットワーク接続ができていないときは

- “失敗”が表示されます。ネットワークの接続状態やネットワーク設定で入力された数値が正しいかご確認ください。
- “やり直し”を選んで決定を押すと、もう一度接続テストが始まります。
- “戻る”を選んで決定を押すと、手順2からの設定をやり直すことができます。

かんたん設定を行っているときは

- このあとp.20の手順6へ進んでください。

メモ

- **プロキシアドレスとは？**
  ブラウザの代わりに目的のサーバーに接続し、ブラウザにデータを送る中継サーバーのアドレスです。プロバイダーから指定されるアドレスを入力します。(例：proxy_server.ne.jp)
- **プロキシポート番号とは？**
  プロキシアドレスと共に、プロバイダーから指定される番号です。(例：8000)

ソフトウェアを更新する

ご購入後も本機をより快適にご利用いただくために、本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新版が公開されることがあります。本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新版が公開された場合は、インターネットやUSBメモリを利用して、更新することができます。

インターネットを利用して更新する

インターネットを利用してサーバーから本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新版をダウンロードして更新することができます。(更新されていないときは、ダウンロードされません。)

準備

- 本機とネットワークを接続しておく(p.16)
- ネットワークの接続設定をしておく(p.22)

1 ホーム を押し、"設定" ➡ "その他設定" ➡ "ソフトウェア更新" ➡ "ネットワークによる更新"の順に選び、決定 を押す

2 ◀ / ▶ で"はい"を選び、決定 を押す

- 本体ソフトウェア(ファームウェア)の確認が始まります。

新しい本体ソフトウェア(ファームウェア)が公開されているときは

確認メッセージが表示されるので、"はい"を選んでください。
本体ソフトウェア(ファームウェア)のダウンロードが開始されます。完了後に自動で本機が再起動し、ソフトウェアの更新が始まります。完了後に再び本機が再起動します。

ご注意

- サーバーに接続できない場合はメッセージが表示されます。確認後、決定 を押してください。

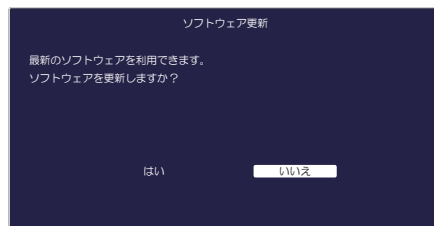
本体ソフトウェア(ファームウェア)が公開されているか自動で確認するには

"ソフトウェア更新確認"機能を"入"にすると、定期的にサーバーをチェックし、新しい本体ソフトウェア(ファームウェア)が公開されている場合は画面にメッセージを表示します。

① ホーム を押し、"設定"→"その他設定"→ "ソフトウェア更新確認" の順に選び、決定 を押す

② ▲ / ▼ で"入"を選び、決定 を押す

新しい本体ソフトウェア(ファームウェア)が公開されているときは

- 本機の電源を「入」にしたときにメッセージが表示されます。

- 更新する場合は、◀ / ▶ で"はい"を選んで 決定 を押してください。"いいえ"を選ぶとメッセージが消え、更新されません。

USBメモリを使って更新する

USBメモリに最新の本体ソフトウェア(ファームウェア)をダウンロードし、更新します。

準備

- 記録可能なUSBメモリを準備する
- 当社ホームページから最新のソフトウェアをダウンロードし、USBメモリに保存しておく
  - 本体ソフトウェア(ファームウェア)は、1つのUSB メモリに1つだけ保存してください。
  - 本体ソフトウェア(ファームウェア)は、USBメモリの第一階層に保存してください。
  - ダウンロード方法の詳細については、当社ホームページをご覧ください。

1 ホーム を押し、"設定" ➡ "その他設定" ➡ "ソフトウェア更新" ➡ "USBメモリによる更新"の順に選び、決定 を押す

2 ◀ / ▶ で"はい"を選び、決定 を押す

3 USBメモリを本体前面のUSB端子に接続する

4 確認メッセージが表示されるので、◀ / ▶ で"はい"を選び、決定 を押す

- 本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新が開始され、完了後に自動で本機が再起動します。

ご注意

- 本体ソフトウェア(ファームウェア)更新中は、絶対に電源コードを抜かないでください。また、USBメモリによる更新中は、USBメモリも抜かないでください。
- 本体ソフトウェア(ファームウェア)更新後は、本書と本機で画面や動作の一部が一致しなくなることがあります。

画面表示の見かた

ホームメニュー

本機の電源を入れたときは、ホームメニュー画面が表示されます。ホームメニューから再生したいメディアを選択したり、さまざまな機能の設定を行うことができます。

- 他の画面を表示しているときに、ホーム を押すとホームメニュー画面に切り換わります。(再生中は、再生を停止してホームメニュー画面に切り換わります。)
- タイトルやファイル一覧画面を表示中は、見る を押してもホームメニュー画面に切り換えることができます。

項目	内容
iVDR	● カセットHDDに記録されているタイトルを再生します。
ホームネットワーク	● ホームネットワークに接続された他機の映像などを再生します。
USB	● USBメモリに保存されたJPEG画像を再生します。
設定	● さまざまな機能の設定を行います。詳しくは、「いろいろな設定を変える(設定メニュー)」(p.41)をご覧ください。

表示されるアイコンについて

アイコン	内容
(読み込み中アイコン)	読み込み中
主な動作	
□ 停止	停止
レジューム	つづき再生の停止 (レジュームポイント設定状態)
▷ 再生	再生
1	連続再生
(シャッフルアイコン)	シャッフル再生
▷ CHP再生	チャプター自動再生
一時停止	再生一時停止
▷ × 1.3	早見再生(音声付き早送り)
早送り	早送り
早戻し	早戻し
(スロー再生アイコン)	スロー再生
(正方向スキップアイコン)	正方向のスキップ
(逆方向スキップアイコン)	逆方向のスキップ
スキップ	可変スキップ
リプレイ	可変リプレイ
ALL	リピート再生　オール
GROUP	リピート再生　グループ
TRACK	リピート再生　トラック
CHAPTER	リピート再生　チャプター
RANDOM	リピート再生　ランダム
TITLE	リピート再生　タイトル
ALL	リピート再生　連続再生
(シャッフルアイコン)	リピート再生　シャッフル
メディアの種類	
iVDR	カセットHDD
USB DATA	USBメモリ
DMP	DLNA対応機器

ご注意

- テレビ画面に“⃠”が表示されるときは、現在その操作を行うことができません。

次ページへつづく

画面表示の見かた・つづき

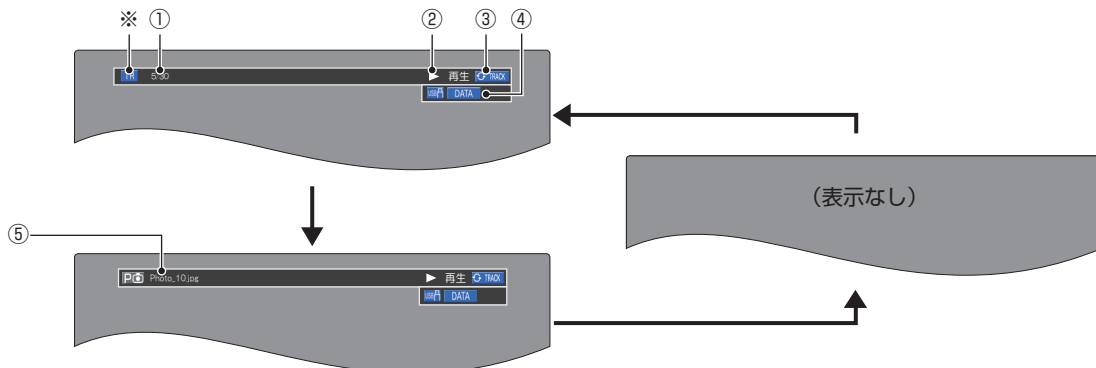
再生中の情報を表示する

再生中にリモコンの 画面表示 を押すたびに、次のように表示が変わります。

カセットHDDのタイトルやホームネットワークの映像を再生しているとき

① 放送日時※、タイトル名
② 放送の種類※、チャンネル番号※
③ 動作状態
④ リピート再生中に表示
⑤ 現チャプター番号／総チャプター数
⑥ メディアの種類
※ カセットHDDの再生中のみ表示されます。

⑦ タイムバー
- 再生中の現在の位置を▽マークで表示します。
- 本編部分は青色、本編以外の部分は灰色で表示されます。
- チャプター自動再生(p.32)で視聴しているときは、バー全体が青色になります。

USBメモリやホームネットワークの写真を再生しているとき

① 現ファイル番号／総ファイル数
② 動作状態
③ リピート再生中に表示
※ USBの再生中のみ表示されます。

④ メディアの種類
⑤ ファイル名

メモ

- 再生するメディアやファイルの種類によって、表示される情報が変わります。

本機で使えるメディアについて

本機で再生ができるメディア

	セキュア対応カセットHDD（iVDR-S） セキュア非対応カセットHDD（iVDR）
	USBメモリ

カセットHDD（iVDR）について

■ カセットHDD（iVDR）とは

カセットHDDは、iVDR（Information Versatile Device for Removable usage）規格に準拠したカセット式のハードディスクです。カセットHDDには標準タイプ、Miniタイプ、EXタイプの3種類のカートリッジがありますが、本機では標準タイプのカートリッジのみご使用になれます。

準備

● カセットHDDを挿入する（p.28）

ご注意

● **アクセス（動作中）ランプが点灯しているときはカセットHDDを抜かないでください。**

USBメモリについて

● 本機はFAT16／FAT32形式でフォーマットされたUSB機器に対応しています。

● USBメモリ以外の機器は接続しないでください。USB機器や本機の故障、記録されているデータの破損の原因になります。（携帯電話、スマートフォン、タブレットは使用できません。）また、本機とUSB機器をUSBハブ経由やUSB 延長ケーブルで接続した場合の動作は、保証していません。

● 本機のUSB端子を使用して、携帯電話やポータブルオーディオプレーヤーなどの充電は行わないでください。本機の故障の原因となります。

ご注意

● **すべてのUSBメモリで動作を保証するものではありません。**

● **USBメモリは、本機のすべての動作を停止させてから抜いてください。**

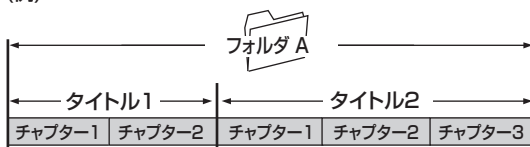
● **USBメモリの再生中・読み込み中は、次のことを行わないでください。USBメモリや本機の故障、記録されているデータの破損の原因となります。**
- 本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりする。
- USBメモリを取り外す。

メディアの記録構成について

● カセットHDDやUSBメモリに記録された内容は、「タイトル」または「ファイル」という区切りに分かれています。

● カセットHDDの「タイトル」は「チャプター」というさらに小さい区切りに分かれています。

● 「タイトル」や「ファイル」は、「フォルダ」というさらに大きな区切りで分類・整理されている場合があります。

（例）

フォルダ：　タイトル（ファイル）やフォルダなどの集合を含む階層のことです。

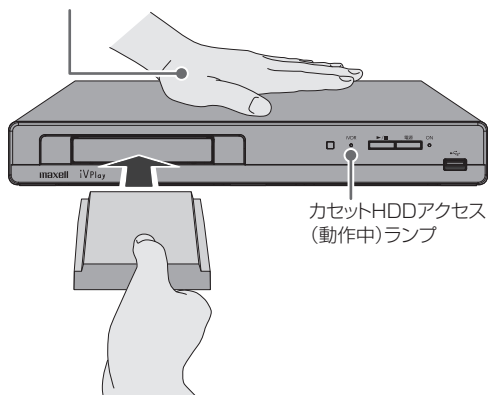
タイトル：　カセットHDDに記録された番組などのコンテンツデータです。

チャプター：　タイトルの内容を、場面や曲ごとにさらに小さく区切ったものです。

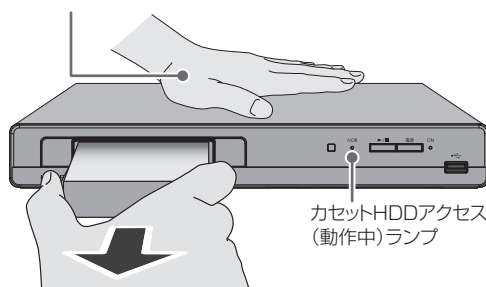
ファイル：　USBメモリに記録されたひとつひとつのデータのことです。

カセットHDDの準備

カセットHDD(iVDR)を挿入口に入れる

カセットHDDを挿入するときは、本体が動かないように、軽く手で押さえ、カセットHDDのiVDRまたはiVDR-Sロゴ面を上にして、止まるまでゆっくりと押し込んでください。

カセットHDD(iVDR)を取り出す

カセットHDDアクセス(動作中)ランプが消灯していることを確認してください。本体が動かないように軽く手で押さえ、カセットHDDをつまみ、ゆっくり引き抜いてください。

カセットHDD アクセス(動作中)ランプが点灯中は、カセットHDD を抜かないでください。

ご注意

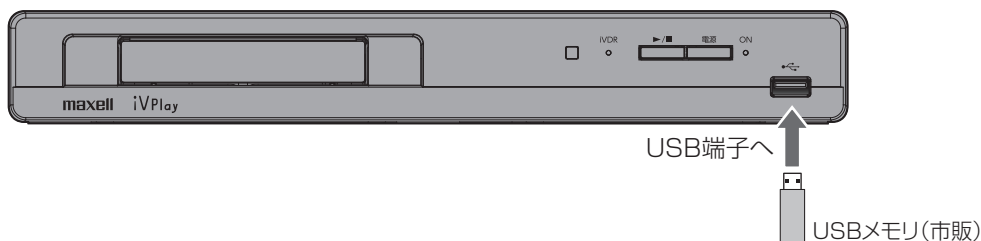
- 次の動作中に、カセットHDDを取り外したり、電源プラグを抜かないでください。カセットHDDの記録内容が損傷し、再生ができなくなる可能性があります。
  - 再生中
  - カセットHDD認識中
  - カセットHDDアクセス(動作中)ランプ点灯中
- パソコンでカセットHDDのフォーマットやファイル操作を行った場合、正常に使用できなくなる場合があります。
- カセットHDD挿入口には、カセットHDD以外のものを挿入しないでください。
- カセットHDD挿入の前に、カセットHDDのコネクタ部に液体・ほこりなどの異物が付いていないことを確認してください。
- カセットHDDは精密機器です。無理な力や衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 頻繁にカセットHDD を抜き差ししないでください。コネクタ接触部が磨耗し接触不良などの故障の原因になります。

メモ

- カセットHDDには、セキュア対応カセットHDD 「iVDR-S」、セキュア非対応カセットHDD 「iVDR」があります。

USBメモリの準備

USBメモリを接続する

本機ではUSBメモリに記録されたJPEGファイルを再生できます。

■ USBメモリを取り外すには

再生が停止していることを確認し、ゆっくりと引き抜いてください。

カセットHDDの映像を再生する

タイトル一覧画面について

カセットHDDに記録されたタイトルを見るときは、タイトル一覧画面を表示させて、見たいタイトルを選んで再生します。

タイトル一覧画面の見かた

タイトル一覧画面を表示するには

「タイトルを再生する」(p.30)の手順 1 ～ 3 を行う

タイトル一覧とフォルダ一覧を切り換えるときは

- タイトル一覧を表示中に［黄］または ◀ を押すと、フォルダ一覧に切り換わります。
- フォルダ一覧を表示中に［決定］または ▶ を押すと、選択していたフォルダのタイトル一覧が表示されます。
- フォルダ一覧を表示中に［黄］を押すと、最後に表示したタイトル一覧が表示されます。（選択しているフォルダ以外のタイトル一覧が表示されることがあります。）

ページを切り換えるときは

 (前ページ)または (次ページ)を押す

ページを指定して表示を切り換えるときは

① ［サブメニュー］を押す
- フォルダ一覧の場合は、手順③に進んでください。

② ▲／▼で"ページ指定ジャンプ"を選び、［決定］を押す

③ ▲／▼でページ番号を選び、［決定］を押す
- 10ページ以上を指定する場合は、◀／▶で桁の移動ができます。

表示するタイトルのジャンルを絞り込んだり、並び順を変えたいときは

① ［サブメニュー］を押して、サブメニューを表示する

② "ジャンル/並び順"を選び、［決定］を押す

③ ジャンルを絞り込みたいときは、▲／▼で"ジャンル"を選び、［決定］を押す
- ジャンルリストが表示されるので、希望のジャンルを選び、［決定］を押してください。

④ 並び順を変えたいときは、▲／▼で"並び順"を選び、［決定］を押す
- 並び順の種類が表示されるので、希望の並び順を選び、［決定］を押してください。

番組名順	• 番組名(タイトル名)順に並び替えます。
新しい順	• 録画日が新しい順に並び替えます。 • 録画日が記録されていない場合は、並び順の最後になります。
古い順	• 録画日が古い順に並び替えます。 • 録画日が記録されていない場合は、並び順の最初になります。

⑤ ▲／▼で"決定"を選び、［決定］を押す

次ページへつづく

カセットHDDの映像を再生する・つづき

タイトルを再生する

1 カセットHDDを挿入する

2 ホーム を押してホームメニュー画面を表示する

- すでにホームメニュー画面を表示しているときは、カセットHDDを挿入すると自動で読み込みが始まり、タイトル一覧画面が表示されます。手順 4 へ進んでください。

3 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で“iVDR”を選び、決定 を押す

- タイトル一覧画面が表示されます。
- ホームメニュー画面で 見る を押しても、タイトル一覧が表示されます。

4 ▲ / ▼ で再生するタイトルを選ぶ

5 ▶ または 決定 を押して、再生を始める

- サブメニュー を押して、サブメニューから再生開始位置を選んで再生することもできます。詳しくは、「再生開始位置について」(p.32)をご覧ください。

メモ

- 本機では、カセットHDDの番組は2000タイトルまで再生できます。

ご注意

- 本機はプレイリスト再生に対応していません。

再生を停止するときは

[■] または [見る] を押す

- 再生が停止し、タイトル一覧画面が表示されます。（レジュームポイントが記憶されます。）

番組説明を表示するときは

タイトルの番組説明を表示することができます。

タイトル一覧画面で表示するには

▲ / ▼ で番組説明を表示したいタイトルを選び、[番組説明] を押します。

再生中に表示するには

再生中に、[番組説明] を押します。

番組説明を消すには

[番組説明] または [戻る] を押します。

番組のジャンルアイコン一覧

アイコン	説明
1080i 16:9	番組の映像信号情報 上：信号方式 下：画面の縦横比
信号	マルチ番組 (映像や音声などが複数あり、切り換えできる番組)
モノラル	モノラル音声
主+副	主+副音声
ステレオ	ステレオ音声
サラウンド	マルチチャンネル音声
字幕	字幕有り

タイトルを連続で再生するときは（連続再生）

選択中のタイトルから連続でフォルダ内のタイトルを再生することができます。
（レジュームポイントが記憶されていると、その箇所からの再生となります）

① タイトル一覧表示中に、▲ / ▼ でタイトルを選び、[サブメニュー] を押す

② ▲ / ▼ で"連続再生"を選び、 を押す

メモ

- フォルダー覧画面のサブメニューからも連続再生をすることができます。その場合、フォルダ内タイトルの再生順序は古い順になります。
- [■] を押すと再生が停止し、連続再生も解除されます。

タイトルをシャッフルして再生するときは(シャッフル再生)

選択中のタイトルから連続でフォルダ内のタイトルをシャッフルして再生することができます。
（レジュームポイントが記憶されていると、その箇所からの再生となります）

① タイトル一覧表示中に、▲ / ▼ でタイトルを選び、[サブメニュー] を押す

② ▲ / ▼ で"シャッフル再生"を選び、[決定] を押す

メモ

- フォルダー覧画面のサブメニューからもシャッフル再生をすることができます。
- [■] を押すと再生が停止し、シャッフル再生も解除されます。

カセットHDDの映像を再生する・つづき

本編のみを再生するときは（チャプター自動再生）

当社製レコーダー（アイヴィブルー）BIV-TW1000／BIV-WS1000／BIV-WS500では、番組の本編と本編以外の変わり目でチャプターを区切って記録することができます。この機能を利用して録画したタイトル（選択中のタイトルのプレビュー再生画面の下に C が表示されます）は、本編以外の部分をとばして再生することができます。

① タイトル一覧表示中に、▲ / ▼ でタイトルを選び、サブメニュー を押す

② ▲ / ▼ で“チャプター自動再生”を選び、決定 を押す

再生中にチャプター自動再生と通常再生を切り換えるには

① タイトルの再生中に サブメニュー を押してサブメニューを表示する

② ▲ / ▼ で“チャプター自動再生”を選び、決定 を押す

③ ▲ / ▼ で“オン”または“オフ”を選ぶ

“オン”： 本編のみ再生します。
“オフ”： 全編を再生します。

• 画面表示 を何回か押し、画面下部にタイムバーを表示させた状態で ▲ / ▼ を押しても切り換えできます。チャプター自動再生に切り換えたときは、画面の右上に“CHP再生”と表示されます。

ご注意

- **当社製レコーダー（アイヴィブルー）BIV-TW1000／BIV-WS1000／BIV-WS500 で録画されたタイトルのみチャプター自動再生することができます。他社製レコーダーを含め、上記以外の機種で録画されたタイトルでは、本機能は使用できません。（2015年8月現在）**

再生開始位置について

再生中に ■ または 見る を押すと、タイトルごとに再生停止位置（レジュームポイント）が記憶されます。

- レジュームポイントが記憶されているタイトルを続きから再生するには、
  - タイトルを選び、▶ または 決定 を押す。
    または、
  - タイトルを選び、サブメニュー を押して“続きから再生”を選び、決定 を押す。
- レジュームポイントが記憶されているタイトルを最初から再生するには、
  - タイトルを選び、サブメニュー を押して“最初から再生”を選び、決定 を押す。

メモ

- **タイトルの終わりまで再生したときは、記憶したレジュームポイントが解除されます。**

■ 最大認識可能数

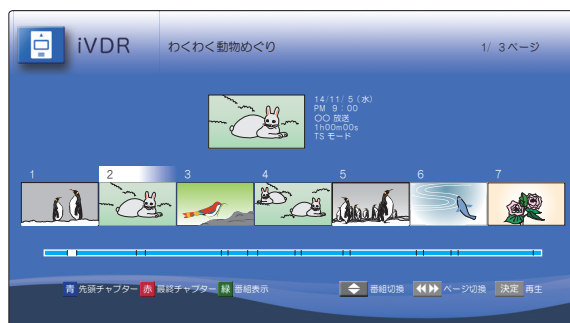
項目	数
フォルダ数（1巻あたり）	100
タイトル数（1巻あたり）	2000
1タイトルあたりのチャプター数	255

サムネイル一覧から再生する

サムネイル一覧から見たいチャプターを選び、選択したチャプターから再生を開始することができます。

1 タイトル一覧表示中に、▲ / ▼ でタイトルを選び、[緑] を押す

- サムネイル一覧が表示されます。
- [サブメニュー] を押して“チャプター表示”を選んでも、サムネイル一覧を表示することができます。

2 ◀ / ▶ で再生を開始したいチャプターのサムネイルを選び、[決定] を押す

- タイトルの先頭または最終チャプターに移動するには、[青] (先頭チャプター)または [赤] (最終チャプター)を押してください。
- ページを切り換えるときは、[◀◀] (前ページ)または [▶▶] (次ページ)を押してください。
- ▲ / ▼ を押すと、前後のタイトルのチャプターサムネイル一覧に切り換わります。
- [緑] を押すとタイトル一覧に切り換わります。

ご注意

- **チャプターのサムネイルが正しく表示できるのは、以下のタイトルのみです。**
  - サムネイル編集機能の付いたレコーダーで作成したタイトル
  - サムネイル画像を含む市販のカセットHDDのタイトル

いろいろな再生

早く見る／聞く（早送り／早戻し）

カセットHDD DLNA 映像 DLNA 音楽

再生中に、▶▶、◀◀ を押す

- 押すたびに、再生速度が4段階で切り換わります。（ホームネットワークの映像や音楽を再生した場合は、3段階、で切り替わります。）
- ▶ を押すと、通常再生に戻ります。
- 一部を除き、音声は出ません。

ご注意

- **ホームネットワークの映像や音楽は、早送り/早戻しできないことがあります。**

音声付きで早く見る（早見再生）

カセットHDD

再生中に、▶ または ▶▶ を1回押す

- ▶ を押すと、音声付きの約1.3倍速の早見再生になります。
- ▶▶ を1回押すと、音声付きの早送りになります。
- ▶ を押すと、通常再生に戻ります。

ご注意

- **音声フォーマットがLPCMのファイルは、早見再生することができません。**

メモ

- **音声がLPCM(ハイレゾのコンテンツ)の早見再生はできません。**

再生を一時的に止める（再生一時停止）

カセットHDD USB DLNA 映像 DLNA 音楽 DLNA 写真

再生中に ❚❚ を押す

- 再生が一時停止します。
- ▶ または ❚❚ を押すと、再生を再開します。

ゆっくり見る（スロー再生）

カセットHDD DLNA 映像

再生一時停止中に、▶▶ を押す

- 押すたびに、再生速度が3段階で切り換わります。
- ▶ を押すと通常再生に、❚❚ を押すと再生一時停止に戻ります。

ご注意

- **ホームネットワークの映像は、スロー再生できないことがあります。**

コマを進める（コマ送り）

カセットHDD DLNA 映像

再生一時停止中に、▶▶| を押す

- 押すたびに、画面が1コマずつ進みます。
- ▶ または ❚❚ を押すと、通常再生に戻ります。

見たい／聞きたいところまでとばす（スキップ）

再生中に、|◀◀、▶▶| を押す

カセットHDD

- 押すたびに、前後のチャプターに移動します。
- |◀◀ の場合、1回目は現在再生中のチャプターの先頭に移動します。

DLNA 映像 DLNA 音楽

- 押すたびに、前後のファイルに移動します。
- |◀◀ の場合、1回目は現在再生中のファイルの先頭に移動します。

USB DLNA 写真

- 押すたびに、前後のファイルに移動します。

メモ

- **早送り、早戻し、スロー再生中にスキップをした場合、移動先からは通常の速度で再生されます。**

可変スキップ／可変リプレイ

カセットHDD DLNA 映像

再生中に 可変リプレイ、可変スキップ を押す

- 押すたびに、"設定"→"再生設定"→"可変スキップ"または"可変リプレイ"で設定した時間だけ再生位置が移動します。(p.41)

メモ

- **早送り、早戻し、スロー再生中に可変スキップ／可変リプレイをした場合、移動先からは通常の速度で再生されます。**

再生中の写真を回転させる

USB DLNA 写真

再生中に ◀ / ▶ を押す

- 押すたびに、画像表示が90°ずつ回転します。
（回転した画像情報は記憶されません。）

番号や時間を指定してとばす(サーチ)

カセットHDD USB DLNA 映像 DLNA 音楽 DLNA 写真

1 再生中に、(サブメニュー)を押してサブメニューを表示する

2 ▲/▼で"サーチ"を選び、(決定)を押す

- カセットHDD以外を再生しているときは、このあと手順 4 へ進んでください。

3 ▲/▼で希望のサーチを選ぶ

サーチ CHP 1/8

- 押すたびにサーチの種類が切り換わります。

4 ▶で変更したい数値へ移動し、▲/▼で数値を変更し、(決定)を押す

- 指定した番号または時間に再生位置が移動します。

入力を間違えたときは

◀/▶で修正したい数値に移動し、入力し直してください。

メモ

- 再生中のメディアやファイルによって、選べるサーチの種類が異なります。

再生メディア/ファイル	サーチの種類
カセットHDD	チャプターサーチ CHP タイムサーチ
USB ● 写真	トラックサーチ TR
ホームネットワーク ● 映像	タイムサーチ
ホームネットワーク ● 音楽 ● 写真	トラックサーチ TR

繰り返し再生する(リピート再生)

カセットHDD USB DLNA 映像 DLNA 音楽 DLNA 写真

1 再生中に、(サブメニュー)を押してサブメニューを表示する

2 ▲/▼で"リピート"を選び、(決定)を押す

3 ▲/▼で希望のリピート再生を選ぶ

リピート オフ

リピート再生をやめるときは

① ■ を押すと再生が停止し、リピートも解除されます。

- 再生を止めずにリピートだけ解除する場合は、再度サブメニューで"リピート"を選び、"オフ"の設定にします。(手順 3)

メモ

- 再生中のメディアやファイルによって、選べるリピート再生の種類が異なります。

再生メディア/ファイル	リピート再生の種類
カセットHDD	**オフ**: リピート再生しません。 **タイトル**: 再生中のタイトルを繰り返し再生します。 **チャプター**: 再生中のチャプターを繰り返し再生します。 **オール**: 連続再生・シャッフル再生時のみ、すべてのタイトルを繰り返し再生します。
USB ● 写真 ホームネットワーク ● 映像 ● 音楽 ● 写真	**オフ**: リピート再生しません。 **オール**※: USBメモリ内のすべての写真(ファイル)を繰り返し再生します。 ※ USBの再生のみ **ランダム**: フォルダ内の映像/音楽/写真をランダムな順序で再生します。 **グループ**: フォルダ内の映像/音楽/写真を繰り返し再生します。 **トラック**: 再生中の映像/音楽/写真を繰り返し再生します。

ご注意

- 以下の操作で、再生位置がリピート範囲を超えた場合はリピートが解除されます。
  - スキップ
  - チャプター/トラック/タイムサーチ
  - 可変スキップ
  - 可変リプレイ

6 再生する

再生中の各種設定切り換え

再生中に、音声や字幕の言語などを切り換えることができます。

音声(言語)を切り換える

カセットHDD　DLNA 映像

再生中のタイトルに複数の音声(主音声／副音声など)や音声言語が記録されているときは、再生したい音声を選ぶことができます。

1 再生中に、[音声切換]を押して、音声情報を表示する

- カセットHDDを再生中は、[サブメニュー]を押してサブメニューを表示し、“音声”を選ぶことでも音声情報を表示できます。

2 希望の音声を選ぶ

◀ / ▶ / ▲ / ▼ で音声を切り換える

- 複数の音声ストリームがある場合は、左側の項目がハイライトされるので、▲ / ▼ で希望の音声を選択してください。

- 選択している音声がステレオの場合は、▲ / ▼ で“ステレオ”→“L-ch”(左音声)→“R-ch”(右音声)に切り換えることができます。(カセットHDDの再生のみ)

- 選択している音声が二カ国語の場合は、▲ / ▼ で“主音声”→“副音声”→“主／副”に切り換えることができます。

ご注意

- 早見再生中は音声切換できません。

字幕(言語)を切り換える

カセットHDD

再生中のタイトルに複数の字幕言語が記録されているときは、字幕の言語や表示／非表示を選ぶことができます。

1 再生中に、[字幕切換]を押して、字幕情報を表示する

- 字幕情報は[サブメニュー]を押して、サブメニューから“字幕”を選ぶことでも表示できます。

2 ▲ / ▼ で希望の字幕を選ぶ

字幕　1 日本語 / 1

- ◀ / ▶ で最後に選んだ字幕言語と“オフ”を切り換えることができます。
- 字幕言語を切り換えてから表示されるまで時間がかかることがあります。

ご注意

- 早見再生中は字幕を切り換えることはできません。
- ホームネットワークで配信されている映像の場合、字幕を切り換えることはできません。

再生映像のノイズを低減する(ノイズリダクション)

カセットHDD　DLNA 映像

1 再生中に、[サブメニュー]を押してサブメニューを表示する

2 ▲ / ▼ で“ノイズリダクション”を選び、[決定]を押す

3 ▲ / ▼ で希望の設定を選び、[決定]を押す

ノイズリダクション　オフ

“オフ”：　ノイズリダクションを無効にします。
“オン”：　ノイズが軽減されます。

再生映像の標準画質を鮮明な画質に補正する(超解像設定)

カセットHDD　DLNA 映像

映像を精細感の高い画質に補正します。

1 再生中に、[サブメニュー]を押してサブメニューを表示する

2 ▲ / ▼ で“超解像設定”を選び、[決定]を押す

3 ▲ / ▼ で希望の設定を選び、[決定]を押す

超解像設定　オフ

“オフ”：　超解像再生を無効にします。
“オン”：　精細感が強調されます。

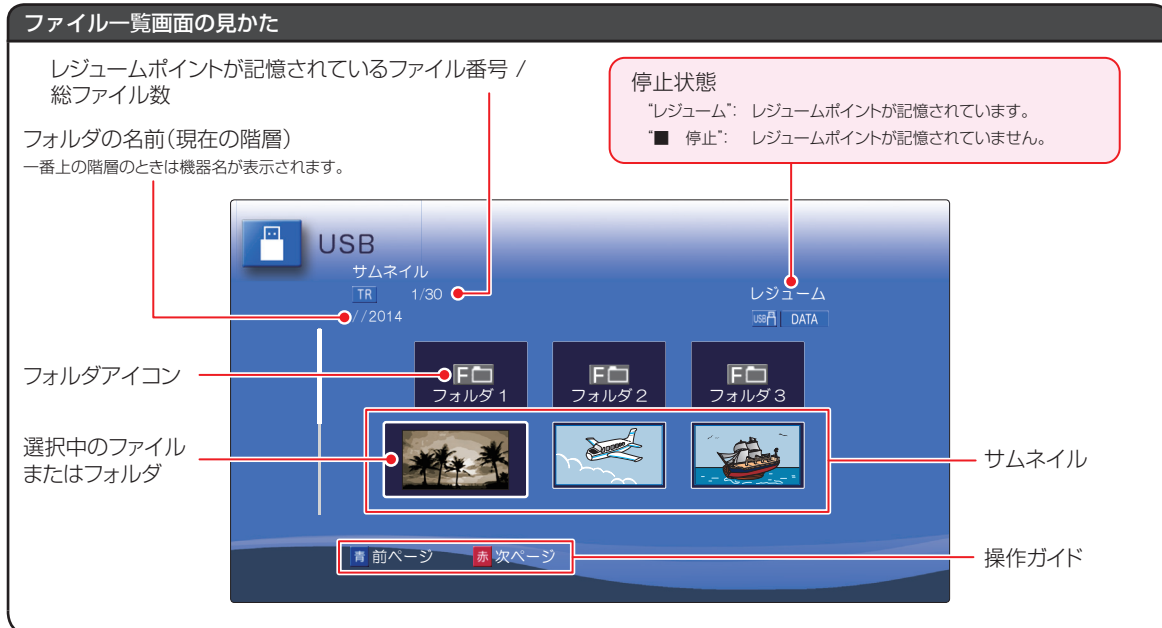
ご注意

- 接続しているテレビによっては、映像が白っぽく見えることがあります。その場合、“超解像設定”を“オフ”に設定してください。
- 再生している映像の解像度や本機に接続している機器のHDMI出力解像度によっては、効果が確認できないことがあります。

USBメモリの写真を再生する

USBメモリに記録されたJPEG 形式の写真を本機で再生することができます。
拡張子「.jpg(JPG)」や「.jpeg(JPEG)」が付いた、Exif 2.1規格準拠のJPEG 圧縮データだけが再生できます。

写真を連続して再生する（スライドショー）

ファイル一覧画面の見かた

1 USBメモリを接続する

2 ホーム を押してホームメニュー画面を表示する

3 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で“USB”を選び、決定 を押す

- ファイル一覧画面が表示されます。

フォルダ内を見たいときは

▲ / ▼ / ◀ / ▶ で見たいフォルダを選び、決定 を押す

- 階層が複数ある場合は、この操作を繰り返してください。
- 戻る を押すと上の階層に戻ります。

別のページを表示するときは

青（前ページ）または 赤（次ページ）を押す

4 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で見たい写真（ファイル）を選び、決定 または ▶ を押して再生を始める

- 選んだ写真（ファイル）と、それ以降に記録されているファイルが連続再生されます。
- 再生中に 画面表示 を2回押すと、ファイル名を表示できます。
- 再生中に ◀ / ▶ を押すたびに、画像表示が90°ずつ回転します。（回転した画像情報は記憶されません。）

次ページへつづく

6 再生する

USBメモリの写真を再生する・つづき

再生を停止するときは

■ または 見る● を押す

- 再生が停止し、ファイル一覧画面が表示されます。(レジュームポイントが記憶されます。)
- 最後のファイルまで再生されると、自動的に停止してファイル一覧画面に戻ります。
- その他の再生操作については、「いろいろな再生」(p.34)をご覧ください。

メモ

- 1ファイルあたりの再生時間(表示間隔)は10秒です。
- ファイル一覧画面には、JPEG形式のファイルだけが表示されます。
- JPEG再生中に再生できないファイルがあった場合は、"⃠"を表示して次のファイルにスキップします。
- 写真の縦横比によっては、上下左右に黒帯が表示されることがあります。

再生開始位置について

- 再生中に ■ を押すと、最後に再生したファイル(レジュームポイント)が記憶されます。
- レジュームポイントが記憶されているときにファイル一覧に画面を切り替えると、最後に再生したファイルが選択された状態で表示されます。
- 最初から再生したいときは、ファイル一覧画面でもう一度 ■ を押してレジュームポイントを解除してください。

メモ

- 次のような場合、記憶したレジュームポイントが解除されます。
  - 本機の電源を切ったとき
  - 本機からUSBメモリを取り外したとき

本機で再生できるJPEGファイルについて

■ 最大認識可能数

項目	数
フォルダ数	999
ファイル数	9999
階層数	9

■ 画素数

項目	画素数
サブサンプリング(4：4：4の場合)	32 × 32 ～ 4096 × 4096
サブサンプリング(4：2：2 または 4：2：0 の場合)	32 × 32 ～ 5120 × 5120

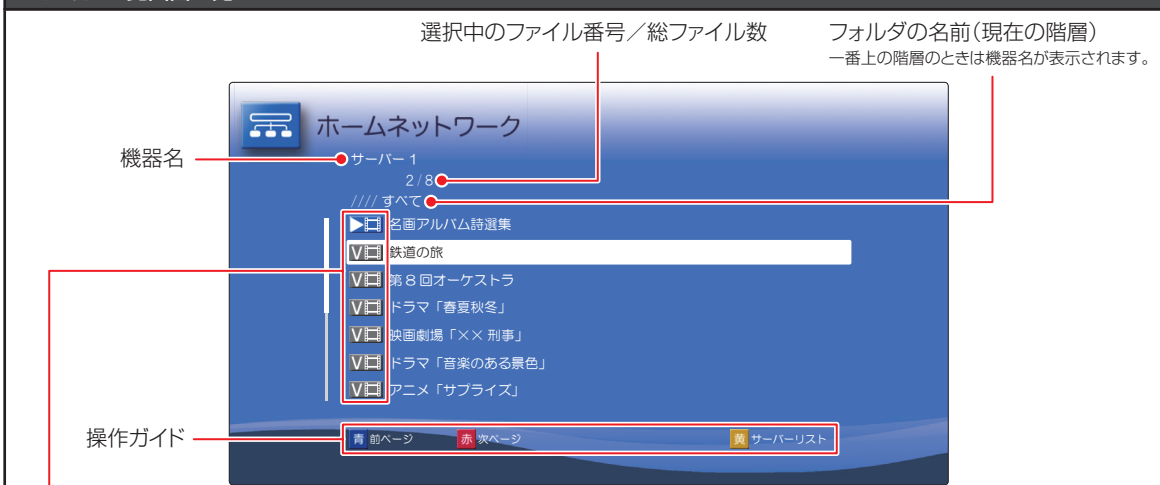
- ファイルサイズは12MBまでです。
- 一覧のフォルダ名が長いときは、末尾の文字が表示されない場合があります。
- USBメモリに記録されたJPEGファイルに対応しています。

ご注意

- JPEG形式以外のファイルは再生できません。
- プログレッシブ形式のJPEGファイルは再生できません。
- Motion JPEGファイルには対応していません。
- 記録状態などによっては、一覧に表示されたファイルでも再生できないことがあります。

ホームネットワークを使って再生する

DLNAを使って、ホームネットワーク上の機器（DLNAサーバー）の映像などを本機で再生することができます。
（レコーダーなどで記録したタイトルも再生することができます。）
● 詳しくは、DLNA対応機器の取扱説明書をご覧ください。

準備
● 本機をネットワークとつなぐ（p.16）
● ネットワークの接続設定をしておく（p.22）

1 ホーム を押してホームメニュー画面を表示する

2 ▲／▼／◀／▶ で“ホームネットワーク”を選び、決定 を押す

● 接続されている機器の一覧が表示されます。（最大30件まで）
● 黄 を押すと一覧が更新されます。

3 ▲／▼ で再生したいファイルが保存されている機器を選び、決定 を押す

4 ▲／▼ で再生したいファイルが保存されているフォルダを選び、決定 を押す

● 階層が複数ある場合は、この操作を繰り返してください。
● 戻る を押すと上の階層に戻ります。

次ページへつづく

ホームネットワークを使って再生する・つづき

5 ▲／▼で再生したいファイルを選び、決定または ▶ を押す

- その他の再生操作や、再生中の設定の切り換えについては、「いろいろな再生」(p.34)、「再生中の各種設定切り換え」(p.36)をご覧ください。

再生を停止するときは

■または見るを押す

- 映像や写真の再生では、停止後にファイル一覧画面が表示されます。

番組説明を表示するときは

DLNA 映像

- 映像再生中に番組説明を押します。
- 番組説明を消したいときは、番組説明または戻るを押します。

再生開始位置について

DLNA 映像

再生中に■を押すと、ファイルごとにレジュームポイントが記憶されます。

- レジュームポイントが記憶されている場合、または決定を押すと、続きから再生します。

メモ

- ファイルの終わりまで再生したときは、記憶したレジュームポイントが解除されます。
- 次のような場合も、ホームネットワーク再生で記憶したすべてのレジュームポイントが解除されます。
  - 本機の電源を切ったとき
  - ホームメニュー、またはサーバーリストに画面を切り替えたとき

ファイル一覧画面で別のページを表示するときは

青(前ページ)または赤(次ページ)を押す

■ 認識できるフォーマット

	映像形式	音声形式
映像	MPEG2	AAC
		MPEG1 Layer2
		LPCM
	H.264	AAC
		MPEG1 Layer2
	MPEG1	—
音楽	LPCM PCM AAC	
写真	JPEG	

ご注意

- サーバー一覧に表示されているファイルでも、再生できないことがあります。
- サーバーと本機は、同じネットワークに接続してください。
- サーバーによって、再生時に使える機能が異なります。
- 映像の画質などは、ネットワークの環境によって異なります。
- 再生中にファイルやフォルダを切り換えるときに、時間がかかることがあります。
- ハイビジョン画質放送と標準画質放送(マルチチャンネル放送など)が混在したタイトルを再生中、早送りや早戻し、サーチ機能を使うと停止することがあります。
- ホームネットワーク上のハイレゾリューションオーディオファイルを再生することはできません。

再生についての補足説明

■ 再生全般

- 再生開始時や再生停止時に、映像や音声が出るまで時間がかかることがあります。
- タイトルの変わり目で画面が一瞬静止画になったりブロックノイズが見えたりすることがあります。

■ タイトル/ファイル一覧画面

- リピート再生中にタイトル/ファイル一覧画面を表示すると、リピート再生が解除されます。

■ つづき再生(レジュームポイント設定状態)

- つづき再生が始まる位置は、レジュームポイントによって多少ずれることがあります。

■ 音声／字幕の切り換え

- 音声(言語)を切り換えると、一瞬映像が止まったり黒画面になったりすることがあります。
- 字幕設定を変更したときは、切り換わるまで多少時間がかかることがあります。
- 早送り／早戻し再生中の字幕表示はできません。

いろいろな設定を変える(設定メニュー)

“設定”メニューを使う

1 ホーム を押して、ホームメニュー画面を表示する

2 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で“設定”を選び、決定 を押す

3 ▲ / ▼ で希望の項目または設定を選び、決定 を押す

各設定項目については、以下の「“設定”メニューの項目と設定内容」(p.41 ～ 42)をご覧ください。
この操作を繰り返し、希望の設定に変更します

- 戻る を押すと、左側の設定項目に戻ります。

希望の設定に変更するときに確認メッセージが出る場合は

① ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で“はい”を選び、決定 を押してください。

ご注意

- 再生中にホームメニュー画面を表示すると、再生が自動的に停止します。

“設定”メニューの項目と設定内容

設定のしかたについては、上記「“設定”メニューを使う」(p.41)をご覧ください。
(　　 はお買い上げ時の設定です。)

項目		設定内容	説明
HDMI 接続設定	解像度設定	自動	接続したHDMI機器によって、HDMI映像解像度を自動で設定します。
		480p	480プログレッシブで出力します。
		720p	720プログレッシブで出力します。
		1080i	1080インターレースで出力します。
		1080p	1080プログレッシブで出力します。
	CEC リンク制御 (p.21)	入	本機のCECリンク制御機能を使う設定です。 ● 本機とHDMI CEC対応テレビをつなぐと、本機が対応しているCECリンク連動機能を利用できます。(HDMI CEC対応テレビの取扱説明書もご覧ください。)
		切	
再生設定	音声出力設定	ビットストリーム	マルチチャンネルのビットストリーム音声信号を出力します。
		LPCM	マルチチャンネルのLPCM音声信号を出力します。
	可変スキップ (p.34)	5 秒	可変スキップ を押したときに、スキップする時間を設定します。
		10 秒	
		30 秒	
		1 分	
		5 分	
	可変リプレイ (p.34)	5 秒	可変リプレイ を押したときに、戻る時間を設定します。
		10 秒	
		30 秒	
		1 分	
		5 分	

7 便利な機能

次ページへつづく

いろいろな設定を変える(設定メニュー)・つづき

項目		設定内容	説明
ネットワーク設定	ネットワーク接続設定 (p.22)	設定開始	ネットワーク設定を行い、ネットワーク接続を有効にします。
		接続テスト	ネットワークが正しく接続できているか確認します。ネットワークの設定後やネットワークの設定を変更後は、接続テストを行ってください。
	ネットワークステータス表示		現在のネットワークの設定を表示します。
その他設定	未使用時自動電源オフ	入	電源「入」状態で本機を使わないとき、節電のために約25分後に自動的に電源を切る設定です。
		切	
	テレビ画面保護	入	設定が“入”のとき、停止中に操作をしない状態が約5分続くと、テレビ画面保護機能が働きます。
		切	
	高速起動	入	本機を高速で起動する設定です。(待機時の消費電力は増加します。)
		切	
	ソフトウェア更新 (p.24)		本体ソフトウェア(ファームウェア)を更新します。
	ソフトウェア更新確認 (p.24)	入	本体ソフトウェア(ファームウェア)の更新を確認する機能です。
		切	
	バージョン情報		現在の本体ソフトウェア(ファームウェア)バージョンを確認します。
	初期化	設定項目初期化	“ネットワーク設定”を除き、“設定”メニューを初期値に戻します。
		ネットワーク設定初期化	“ネットワーク設定”で設定した内容を初期値に戻します。
		個人情報初期化	本機の設定を工場出荷状態に戻し、電源を切ります。 ● 本機を譲渡または廃棄される場合には、“個人情報初期化”を行うことをおすすめします。
	ライセンス情報		本機で使用しているソフトウェアのライセンス情報を表示します。

参考資料

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本内容はライセンス情報のため、操作には関係ありません。

本機は、米国「Free Software Foundation, Inc.が定めたGNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2及びGNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1（以下「ソフトウェア使用許諾契約書」といいます。）に基づきフリーソフトウェアとして使用許諾されるソフトウェアモジュールを使用しています。

対象となるソフトウェアモジュールのお問い合わせに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。

ホームページアドレス

http://support.maxell.co.jp/consumer_contact/detail.php?goods=ivrecorder

当該ソフトウェアモジュールの使用条件等の詳細につきましては、ホームメニュー画面の"設定"→"その他設定"→"ライセンス情報"に記載する各ソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。（日立マクセル以外の第三者による規定であるため、原文を記載します。）

当該ソフトウェアモジュールについては、日立マクセル以外に、別途著作権者その他の権利を有するものがおり、かつ、無償での使用許諾ですので、現状のままでの提供であり、また、適用法令の範囲内で一切保証（明示するもの、しないものを問いません。）をしないものとします。また、当社は、当該ソフトウェアモジュール及びその使用に関して生じたいかなる損害（データの消失、正確さの喪失、他のプログラムとのインターフェースの不適合化等も含まれます。）についても、適用法令の範囲内で一切責任を負わず、費用負担をいたしません。

著作権について

- 保護されたコンテンツを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。
- 本製品は、AVC Patent Portfolio LicenseおよびVC-1Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客さまが個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。
  - AVC規格に準拠する動画を記録する場合
  - 個人的かつ非営利活動に従事する消費者によって記録されたAVC規格に準拠する動画およびVC-1規格に準拠する動画を再生する場合
  - ライセンスを受けた提供者から入手されたAVC規格に準拠する動画およびVC-1規格に準拠する動画を再生する場合

  詳細については米国法人MPEG LA, LLC（http://www.mpegla.com）をご参照ください。
- HDMIとHDMI High-Definition Multimedia Interface用語およびHDMIロゴは、米国およびその他国々において、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- 「iVDR」と iVDR S は、「iVDR技術規格」に準拠することを表す商標です。
- DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED® are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- その他に記載されている会社名、ブランド名、ロゴ、製品名、機能名などは、それぞれの会社の商標または登録商標です。

仕様

モデル名	VDR-P300
一般	
電源	AC 100 V　50 ／ 60 Hz
消費電力	10 W
許容動作温度	5 ～ 40 ℃
許容湿度	最大80%（結露なきこと）
外形寸法	280（幅）× 39（高さ）× 198（奥行）mm（突起部含む）
質量	865 g
端子部	
HDMI出力	HDMI端子　19 ピン　Type A　×1
USB端子	USB2.0準拠　Type A　DC5 V　最大 500 mA　×1
iVDRスロット	iVDRコネクタ（SATA仕様）26ピン
LAN（10 ／ 100）	10 BASE-T ／ 100 BASE-TX　×1

仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

■ 補修用性能部品の保有期間について

- iVDRプレーヤーの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後７年です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

困ったときは

あれ？おかしいな？と思ったときは、修理を依頼される前に以下の手順でお調べください。
- 本機と接続している機器の取扱説明書もよくお読みください。

おかしいな？と思ったときの調べかた

1 **まずは、次ページ からの「こんなときは（症状） ー ここをお調べください（原因と対応のしかた）」をご覧になり、現在の症状と対応のしかたをお調べください。**

それでも直らないときは
2 **機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。**

USBメモリ、カセットHDDが取り出せる場合は、先に取り出しておいてください。

① 本機の電源を切ることができる場合は、本体前面の［電源］ボタンを押して本機の電源を切る
（［電源］ボタンを10秒以上長押しすると、強制的に電源を切ります。）

② 本機の電源プラグを電源コンセントから抜いて、数秒間待つ

③ 本機の電源プラグを再度電源コンセントに差し込む（本機が通電状態になります。）

④ 電源を入れて、動作を確認する

それでも、まだ不具合があるときは
3 **本機の使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、当社お客様ご相談センターまたはお買い上げの販売店にご相談ください。**

次ページへつづく

困ったときは・つづき

■ 電源

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
電源が入らない。	● 電源コードのプラグが電源コンセントから抜けていませんか? ● リモコンの乾電池が消耗していませんか? ● 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。 →「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.45)の手順 2 以降を行ってください。	17 18 45
電源を入れると、"かんたん設定"画面が表示される。	● 接続が終わって初めて電源を入れたときや、"個人情報初期化"を行ったときは、"かんたん設定"画面が表示されます。	20
テレビの電源を切ると、本機の電源も自動的に切れる。 本機の電源を入れると、テレビの電源も自動的に入る。	● CECリンク機能対応テレビと組み合わせて、本機のCECリンク制御を設定しているときは、テレビの電源と本機の電源が連動して自動的に入/切 します。(お使いのテレビによっては、自動的に電源が「入」にならないものもあります。)	21
勝手に電源が切れる。	● "未使用時自動電源オフ"機能が設定されていませんか? ● 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。 →「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.45)の手順 2 以降を行ってください。	42 45
電源を切っても、電源がしばらく切れなかったり、切れるまで時間がかかる。	● システムの終了や情報の更新を行うため、実際に電源が切れるまで、しばらく時間がかかることがあります。	—

■ 本機の操作全般

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
本機が動かない。 本機の操作ができない。	● その操作が禁止されているときは、"⃠"またはメッセージが表示されます。 ● リモコンの乾電池が消耗していませんか? ● ご購入後に初めて電源を入れたときや、"個人情報初期化"を行った後に再び電源を入れたときは、"かんたん設定"画面が表示されます。 ● "かんたん設定"実行中は、再生できません。 ● 機器内部に何らかの異常が発生している可能性があります。このような場合、強制的に電源を切る仕組みになっています。 →「おかしいな?と思ったときの調べかた」(p.45)の手順 2 以降を行ってください。	25 18 20 — 45
本機の設定画面やサブメニューが選べない。 表示されない項目がある。	● 設定や項目の操作ができないときは、選べない場合や、表示されない場合があります。 ● テレビの入力切換が、本機を接続した入力に設定されていますか?	— —
本機が正常に動作しない。	● 結露が起こっていませんか? → 電源を入れたまま、2時間以上お待ちください。	10
USBメモリの操作ができない。 USBメモリの内容が読めない。	● 本機で対応しているUSBメモリを接続していますか? ● USB端子にしっかり差し込まれていますか? ● 再生中にUSBメモリを接続したときは、認識されないことがあります。	27 28 —
USBメモリをつないでいて、途中から本機の操作ができなくなった。	● USBメモリから写真の再生中に、接続に異常が発生し、本機の操作ができなくなっています。 →USBメモリを取り外して、再度接続してください。	28

■ リモコン

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
リモコンがはたらかない。	● 乾電池が消耗していませんか? ● 乾電池の向き(⊕と⊖)が正しいか確認してください。	18 18

■ 再生

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
再生できない。 再生画面が出ない。	● テレビの入力切換が、本機を接続した入力に設定されていますか？ ● ▶ を5秒間長押ししてください。"HDMI接続設定"の"解像度設定"を初期値("自動")に戻すことができます。	19 –
タイトルの最初から再生が始まらない。	● つづき再生(レジュームポイント設定状態)になっていませんか？	32 38 40
再生中の映像が乱れる。 再生中の色がおかしくなる。	● 早送り／早戻しなどをすると、映像が多少乱れることがあります。 ● 携帯電話など、電波を発する機器を近くで使用していませんか？	– –
音声が出ない。 字幕が出ない。	● AVアンプなど、つないでいる機器について次のことを確認してください。 - つないだ機器の電源が入っていますか？ - つないだ機器の入力切換が合っていますか？ - ケーブルやコードを正しく(入力／出力も含む)つないでいますか？ ● カセットHDDに記録されたタイトルの録画モードによっては、字幕が出ないことがあります。 ● 字幕情報がないタイトルについては、字幕を切り換えできません。	– – –
ハイビジョン画質で見ることができない。	● ハイビジョンで記録されたタイトルかご確認ください。(ハイビジョンで記録されていない映像を、ハイビジョン画質で見ることはできません。)	–
	● 本機と接続しているテレビがハイビジョンに対応しているかご確認ください。	–

■ カセットHDD

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
カセットHDDが使用できない。	● カセットHDDが正しく挿入されていますか？ → 正しく挿入してください。	28
カセットHDDのタイトルが消えてしまった。	● カセットHDDを使用中に、雷などの瞬間的な停電、ブレーカーが落ちるなどで電源が切れませんでしたか？ → このような場合、記録されていたタイトルが消える場合があります。タイトルがすべて消えた場合や、カセットHDDが動作しない場合は、カセットHDD対応レコーダーで、カセットHDDを初期化してください。(消えているタイトルを元に戻すことはできません。)	–

■ CECリンク制御

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
CECリンク制御がはたらかない。	● CECリンク制御は、本機と対応機器を組み合わせて、必要な設定を行っている場合だけ使えます。 ● CECリンク制御が有効な状態で、本機の電源コードやHDMIケーブルを抜いた場合は、CECリンク制御が無効となります。 → 電源コードやHDMIケーブルを接続後、"HDMI接続設定"－"CECリンク制御"の設定を一度"切"に変更して決定したあともう一度設定を"入"に変更して決定すると、再びCECリンク制御が有効になります。	21 21

■ ネットワーク

こんなときは(症状)	ここをお調べください(原因と対応のしかた)	参照ページ
ネットワークに接続できない。	● モデムやルーターの電源が入っているか確認してください。 ● モデムやルーターのインターネットランプが点灯しているか確認してください。 ● 本機のネットワーク設定を確認してください。 ● 本機とルーターが正しく接続できているか確認してください。 ● ルーターのDHCP機能を「入」に設定してください。	– – 22 16 –

用語説明

■ あ

インターレース(飛び越し走査)(p.41)
- テレビに映像を映すときに従来から行われている方式で、1つの画像(有効走査線)を1本飛ばしの半分ずつ2回に分けて表示します。これにより、1つの画像を1/30秒(30コマ/秒)で映します。

■ か

拡張子(p.37)
- ファイル名の末尾につけられた文字列のことで、各種ファイルの属性を識別します。

■ さ

サブサンプリング(p.38)
- JPEGファイルを圧縮する処理のことで、色の情報を間引いて容量を小さくすることです。

■ た

タイトル(p.27)
- カセットHDDの大きな区切りのことです。

チャプター(p.27)
- タイトルの中の小さな区切りのことです。

■ は

ハイレゾリューションオーディオ
- ハイレゾリューションとは「高解像度」を意味し、CDを超える情報量の音源または再生環境を指します。ハイレゾリューションオーディオは、よりオリジナルに近い臨場感を再現できるとされています。

ビットストリーム(p.41)
- 圧縮されてデジタル信号に置き換えられた信号のことで、対応しているアンプなどによってそれぞれに合った信号に変換されます。

ブロードバンド(p.16)
- 高速かつ大容量のデータ通信を可能にする帯域幅の広いネットワーク回線や通信環境のことです。

プログレッシブ(順次走査)(p.41)
- テレビに映像を映すときに、1つの画像(有効走査線)を一度に表示し、1/60秒(60コマ/秒)で映します。
  インターレース出力に対し、ちらつきの少ない高密度の映像を楽しめます。

ブロックノイズ(p.9、40)
- 電気信号の乱れにより発生するノイズの一種で、モザイク状の画像の乱れのことです。

プロバイダー(p.16)
- インターネットサービスプロバイダー の 略 称 でISP (Internet Service Provider)とも呼ばれます。各端末からインターネットへの接続を供給するために運営される電気通信事業者のことです。

本体ソフトウェア(ファームウェア)(p.24)
- 本機の動作に必要な処理を行うための中枢的なプログラム(ソフトウェア)です。

■ ま

モデム(p.16)
- デジタルデータを音声信号に変換して電話回線に流したり、電話回線を通じて聞こえてくる音声信号をデジタルデータに変換したりするデータ回線終端装置です。

■ ら

ルーター(p.16)
- 複数のネットワーク間でのデータ通信を中継するための機器のことです。

レジュームポイント(p.31、32、38、40)
- 再生中に停止したときの停止位置を記憶します。

■ ABC

AAC(p.40)
- Advanced Audio Codingの略で、音声符号化の規格の1つです。AACは、CD並みの音質データを約1/12にまで圧縮できます。また、5.1chのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

ADSL(p.16)
- 一般の電話回線を使うブロードバンドの一種で、音声信号より高い周波数帯で高速通信を行うために開発された技術です。

AVアンプ(p.15)
- 様々な音響機器、映像機器を接続し、集中的にコントロールできる機能を備えたアンプです。

CECリンク制御(p.21、41)
- HDMIケーブルを使って対応機器とつなぐことで、機器との連動操作が行えるようになる機能です。

DLNA(ディーエルエヌエー)(p.39)
- Digital Living Network Alliance の略で、お持ちのDLNA対応機器を同一ネットワーク内で相互接続し、他機で録画されたコンテンツの閲覧などを可能にするための規格です。

FAT16 ／ FAT32 (p.27)
- ファイルシステムと呼ばれるUSBメモリなど記録媒体で初期化する際に選択できるデータ管理方式です。一つの領域に確保される容量がそれぞれ異なります。

HDMI(p.15)
- High Definition Multimedia Interfaceの略で、テレビなどのデジタル機器と接続できるデジタルAVインタフェースです。
  映像信号と音声信号を1本のケーブルで接続できます。

iVDR(p.27)
- iVDR (Information Versatile Device for Removable usage) 規格に準拠したカセット式のハードディスクドライブ (カセットHDD) です。レコーダーで記録したカセットHDDをプレーヤーに接続して再生するなど、HDDの高速かつ大容量を活かしたリムーバブルメディアとして利用できます。

JPEG(ジェイペグ)(p.37、40)
- Joint Photographic Experts Groupの略で、静止画像データの圧縮方式の1つです。ファイル容量を小さくできる割に画質の低下が少ないため、デジタルカメラの保存方式などで広く使われています。

LPCM(p.34、40、41)
- PCMはPulse Code Modulationの略で、LPCMはデジタル音声をそのまま圧縮せずに記録する方式です。

MPEG(エムペグ)(p.40)
- MPEGはMoving Picture Experts Groupの略で、動画音声圧縮方式の国際標準です。

USB(p.27)
- Universal Serial Busの略で、周辺機器を接続するためのインタフェースです。本機では、USBメモリを接続して、写真(JPEG)の再生ができます。

さくいん